

2020年度 L2-Tech水準表 ver.1.0

2020年度 L2-Tech水準表（2020年12月）

- 本水準表の作成にあたっては、カタログ等、企業が広く公表している資料及びWebページを中心に情報を収集し、当該技術に専門的知見を有する有識者からもご意見をいただきながら、科学技術的・客観的観点から情報を整理しています。
- 本水準表は、2020年12月までに収集した情報をもとに作成したものであり、今後も情報収集を継続するとともに、ご意見をいただき更新・充実させていく予定です。

項目	主な記載内容	
L2-TechリストNo.	設備・機器等ごとにIDを付番。	
区分	以下のように、エネルギー源を示した「部門」軸と、エネルギー技術を原理・しくみの違いで整理した「技術」軸に区分。 部門1: 当該設備・機器等の導入可能性の高い部門 部門2: 当該設備・機器等の利用可能性の高い用途、業種、プロセス、輸送手段、エネルギー種別 技術分類: 設備・機器等のカテゴリ(基本的な原理・しくみの種別) ※参照: 環境省「日本の約束草案要綱(案)」、国立環境研究所「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」、エネルギー戦略協議会「エネルギー技術体系」、日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」	
設備・機器等	設備・機器等(システム、設備・機器、部材等)の名称を記載。2050年までに80%の温室効果ガス削減という目標に向けて、環境省がCO2削減に重要と考える設備・機器等(カテゴリ)を、「CO2削減効果」及び「導入可能性」の観点で選定。	
原理・しくみ	設備・機器等の原理・しくみ、またはCO2削減に資する原理・しくみの説明を記載。	
クラス	認証の単位となるクラスを記載。購買の選択条件に応じて、条件(仕様、付加機能等)及び能力(加熱能力、発電出力等)で分類。	
認証対象	2019年度L2-Tech認証制度において、募集対象となる設備・機器等を「○(または●*1)」、募集対象外の設備・機器等を「-(ハイフン)」として記載。 *1 簡易申請の対象となり得るクラス(条件・能力)に付与(詳細は、実施要領等に記載)	
L2-Tech水準表情報No.	クラスごとにIDを付番。	
L2-Tech水準	L2-Tech水準を記載。本水準は、指定された試験条件に基づき測定された結果を、指定の計算方法によって算出した値である。本水準は、2019年11月時点における値であり、かつ収集できた情報のうち最高性能の値を採用している。なお、「*(アスタリスク)」が付与されているクラスは、根拠資料として試験結果報告書の提出を受付可能であることを示す。(詳細は、実施要領に記載)	
指標	測定単位	L2-Tech水準の単位、及びその名称を記載。
	評価方法のタイプ	以下のいずれかから、効率性能の評価方法のタイプを記載。 標準規格による評価: JIS等の国際・日本標準の規格、または省エネ法等の法律に準拠した試験条件及び計算方法によって評価する方法 標準条件による評価: 規格化されていないが一部で標準条件として用いられている、または標準として業界と合意した試験条件及び計算方法によって評価する方法 シミュレーションによる評価: 標準条件に基づき、実試験ではなくコンピュータ上で模擬試験を行うことによって評価する方法 具備機能による評価: 一定レベル以上の機能を具備しているものを評価する方法
	計算方法	性能の計算方法について、準拠すべき規格または具体的な方法を記載。
	試験条件	性能を評価するための試験条件について、準拠すべき規格または具体的な条件を記載。
備考	特記事項等を記載。	

記号の使用方法

本リスト中の「-」、「・」及び「/」は、下記を示す。
「-」: 対象項目に該当する情報が存在しない、非対象、調査中、または不明。
「・」: AND条件。 例) 空調機(ヒートポンプ・個別方式) → (ヒートポンプかつ個別方式の)空調機
「/」: OR条件。 例) 空調/産業用プロセス → 空調または産業用プロセス

区分	L2-Tech リストNo.	設備・機器等	(掲載数)
A 産業・業務 (業種共通)	空調機(ヒートポンプ・個別方式)	L-001301 ガスヒートポンプ L-001302 パッケージエアコン(店舗・オフィス用) L-001303 パッケージエアコン(設備用) L-001304 パッケージエアコン(ビル用マルチ) L-001305 水蓄熱式パッケージエアコン	(5)
	熱源・空調機(ヒートポンプ・中央方式)	L-001308 フロン類等冷媒ターボ冷凍機 L-001309 自然冷媒ターボ冷凍機 L-001310 水冷ヒートポンプチラー L-001311 空冷ヒートポンプチラー	(4)
	熱源・空調機(ヒートポンプ・中央方式)・熱源補機	L-001313 水蓄熱ユニット	(1)
	熱源・空調機(気化式・中央方式)	L-001315 間接気化式冷却器	(1)
	熱源・空調機(吸収式・中央方式)	L-001316 吸収冷温水機(二重効用) L-001317 吸収冷温水機(三重効用)/廃熱投入型吸収冷温水機(三重効用) L-001318 一重二重併用形吸収冷温水機 L-001319 木質ペレット直焚き吸収冷温水機(二重効用)	(4)
	熱源・空調機(地中熱利用・中央方式)	L-001323 パッシブ地中熱利用システム	(1)
	熱源・空調機(吸着式・中央方式)	L-001324 吸着式冷凍機	(1)
	熱源(ヒートポンプ)	L-001325 高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式) L-001326 高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式) L-001327 高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式) L-001328 高温水ヒートポンプ(水熱源・一過式) L-001329 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・循環式) L-001330 高温水ヒートポンプ(水空気熱源・一過式) L-001331 熱風ヒートポンプ(空気熱源・一過式) L-001332 熱風ヒートポンプ(水熱源・一過/循環式) L-001333 蒸気発生ヒートポンプ(水熱源・一過式) L-001334 蒸気再圧縮装置	(10)
	空調機(ペレットストーブ)	L-001336 密閉式ペレットストーブ	(1)
	空調フィルタ	L-001337 空調用ハイブリッドフィルタ	(1)
	給湯器(ヒートポンプ)	L-001338 ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	(1)
	給湯器(ガス式)	L-001340 潜熱回収型給湯器	(1)
	ボイラ	L-001341 温水機 L-001342 蒸気ボイラ(貫流ボイラ) L-001343 蒸気ボイラ(伊筒煙管ボイラ) L-001344 蒸気ボイラ(水管ボイラ) L-001345 水素ボイラ(貫流ボイラ) L-001346 熱媒ボイラ	(6)
	コージェネレーション	L-001347 ガスエンジンコージェネレーション L-001348 ガスタービンコージェネレーション L-001349 燃料電池コージェネレーション	(3)
	冷凍冷蔵機器	L-001352 業務用冷凍冷蔵庫 L-001353 空気冷媒方式冷凍機 L-001354 冷凍冷蔵倉庫用自然冷媒冷凍機(アンモニア/CO2二次冷媒システム) L-001355 自然冷媒冷凍冷蔵コンデンシングユニット	(4)
	照明器具	L-001356 LED照明器具	(1)
	プリンタ/複写機	L-001357 プリンタ	(2)
	モータ	L-001358 複合機 L-001359 誘導モータ L-001360 永久磁石同期モータ	(2)
	変圧器	L-001361 油入変圧器 L-001362 モールド変圧器	(2)
	モータ利用機器(圧縮機)	L-001371 蒸気駆動圧縮機 L-001372 熱回収式ねじ容積形圧縮機	(2)
	窓	L-001385 Low-E複層ガラス L-001386 三層Low-E複層ガラス L-001387 真空Low-E複層ガラス L-001388 アタッチメント付きLow-E複層ガラス L-001389 真空ガラス L-001390 現場施工型後付けLow-E複層ガラス L-001391 薄型Low-E複層ガラス	(7)
	断熱材	L-001392 断熱材(押出法ポリスチレンフォーム) L-001393 断熱材(グラスウール) L-001395 低放射遮熱塗料 L-001394 真空断熱材	(3)
	乾燥設備	L-001396 蒸気リサイクル型濃縮乾燥装置	(1)
	洗濯機	L-001397 業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	(1)
	エネルギーマネジメントシステム	L-001401 BEMS(制御サービス・空調・熱源・中央方式)	(1)
	その他	L-001396 蒸気リサイクル型濃縮乾燥装置 L-001408 サーバ用電子計算機 L-001414 農業等暖房用温水発生機	(1)
	オフロード特殊自動車(建設機械・内燃機関型)	L-001420 油圧ショベル(内燃機関型) L-001421 ブルドーザ(内燃機関型) L-001422 ホイールローダ(内燃機関型)	(3)
	オフロード特殊自動車(建設機械・ハイブリッド型)	L-001058 油圧ショベル(ハイブリッド型)	(1)

区分	L2-Tech リストNo.	設備・機器等	(掲載数)
B 産業 (業種固有)	オフロード特殊自動車(建設機械・電気型)	L-001427 油圧ショベル(電動型) L-001428 ブルドーザ(電動型)	(2)
	洗浄乾燥機	L-001429 遠心脱水型コンテナ(容器)洗浄乾燥機	(1)
	蒸留塔	L-001441 内部熱交換最適化蒸留システム	(1)
	業務用冷凍機器	L-001430 低温用自然冷媒冷凍機(アンモニア/CO2二次冷媒システム)	(1)
	その他	L-001431 低温蒸気式加熱殺菌装置 L-001432 乾燥機 L-001433 熱回収式工業用繊維物乾燥機 L-001434 熱回収式工業用繊維物熱処理機 L-001442 MVR型(自己蒸気機械圧縮型)蒸発濃縮装置	(1)
	自動車(内燃機関型)	L-001466 ガソリン・ディーゼル車(乗用車) L-001467 ディーゼル・天然ガス車(商用車・重量車)	(2)
	自動車(ハイブリッド型)	L-001469 ハイブリッド自動車(乗用車) L-001470 ハイブリッド自動車(商用車・重量車)	(2)
	自動車(電気型)	L-001472 電気自動車(乗用車)	(1)
	空調機(ヒートポンプ)	L-001511 ルームエアコン L-001512 ヒートポンプ冷温水システム L-001513 ヒートポンプ式温水床暖房 L-001514 ルームエアコン付温水床暖房 L-001515 マルチタイプ温水床暖房	(5)
	空調機(ヒートポンプ・地中熱利用)	L-001516 地中熱ルームエアコン	(2)
空調機(ヒートポンプ・地中熱利用)	L-001517 地中熱ヒートポンプ冷温水システム(ハイブリッド式)	(1)	
空調機(ペレットストーブ)	#N/A 密閉式ペレットストーブ(家庭用)	(1)	
給湯器(ヒートポンプ)	L-001480 家庭用エコキュート L-001481 多機能ヒートポンプ給湯機	(2)	
給湯器(ヒートポンプ・太陽熱利用)	L-001519 太陽熱集熱器対応型エコキュート	(1)	
給湯器(ガス式)	L-001482 ガス温水機器(エコジョーズ)	(1)	
給湯器(ヒートポンプ・ガス式)	L-001520 ハイブリッド給湯機(家庭用)	(1)	
給湯器(石油式)	L-001521 石油温水機器(エコフィール)	(1)	
給湯器(太陽熱利用)	L-001523 真空管集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用) L-001524 平板集熱器(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用) L-001525 蓄熱槽(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用)	(3)	
コージェネレーション	L-001483 家庭用燃料電池(エネファーム・PEFC) L-001484 家庭用燃料電池(エネファーム・SOFC)	(2)	
冷凍冷蔵機器	L-001485 電気冷蔵庫	(1)	
照明器具	L-001486 LED照明器具(家庭用)	(1)	
テレビ	L-001526 液晶テレビ	(1)	
洗濯機	L-001505 洗濯乾燥機	(1)	
電気便座	L-001527 電気便座	(1)	
窓	L-001487 Low-E複層ガラス(家庭用) L-001488 三層Low-E複層ガラス(家庭用) L-001489 真空Low-E複層ガラス(家庭用) L-001490 アタッチメント付きLow-E複層ガラス(家庭用) L-001491 真空ガラス(家庭用) L-001492 現場施工型後付けLow-E複層ガラス(家庭用) L-001493 薄型Low-E複層ガラス(家庭用) L-001494 Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-001495 Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ L-001496 三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-001497 三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ L-001498 五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ L-001499 真空ガラス・樹脂サッシ L-001500 真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	(14)	
玄関ドア	L-001501 金属製玄関ドア	(1)	
断熱材	L-001502 断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム) L-001503 断熱材(家庭用・グラスウール) #N/A 真空断熱材(家庭用)	(3)	
エネルギーマネジメントシステム	L-001509 HEMS(情報提供サービス・家電全般)	(1)	
燃料電池	L-001531 固体酸化物形燃料電池(SOFC)設備	(1)	
太陽光発電	L-001534 太陽電池(シリコン系・単結晶) L-001535 太陽電池(シリコン系・多結晶) L-001536 太陽電池(化合物系) L-001537 太陽電池(薄膜シリコン) L-001538 トランスレス方式パワーコンディショナ(太陽光発電用) L-001539 高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	(6)	
水力発電	L-001546 プロペラ水車(小水力発電用) L-001547 フランシス水車(小水力発電用)	(2)	
地熱発電	L-001551 温水熱源小型バイナリー発電設備 L-001552 蒸気熱源小型バイナリー発電設備	(2)	
バイオマス発電	L-001555 ガスエンジン発電設備(メタン発電用) L-001556 ディーゼル発電設備(バイオディーゼル燃料専用) L-001558 潜熱蓄熱輸送設備	(2)	
熱輸送	L-001558 潜熱蓄熱輸送設備	(1)	
リン回収設備	L-001579 リン回収設備HAP法(し尿・浄化槽汚泥用) L-001580 リン回収設備MAP法(し尿・浄化槽汚泥用) L-001581 リン回収設備MAP法(下水汚泥用)	(3)	
F 廃棄物・リサイクル	L-001583 選別機	(1)	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	試験規格		規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明				
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称										
L-001301	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	ガスヒートポン プ	室外機内のコンプレッサの駆動をガスエンジンで行うヒートポン プ方式の空調機。	-	相当馬力数	7.5HP以下	•	S-005901	1.19	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	COPp= (Ccr+Chr) /2 Ccr=Φ crr/(Gcr+Pcr/(3600/9760)), Chr=Φ hr/(Ghr+Phr/(3600/9760)) Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力 (kW) Φhr: 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格 冷房標準ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準ガ ス消費量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力 (kW) Phr: 定格暖房標準消費電力(kW) ※ COPplは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目ま でを表示する。	JRA4067:201 5または JISB8627:20 06	いずれもガ スヒートポ ンプ冷暖房 機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。た だし、電源の周波数は、50Hzとする。						
								7.5HP超10HP以下	•	S-005902	1.22															
								10HP超16HP以下	•	S-005903	1.33															
								16HP超25HP以下	•	S-005904	1.34															
								25HP超	•	S-005905	1.3															
												-	7.5HP以下	-	S-005906	-	-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	
												•	7.5HP超10HP以下	•	S-005907	1.39										
												•	10HP超16HP以下	•	S-005908	1.86										
												•	16HP超25HP以下	•	S-005909	1.98										
												•	25HP超	•	S-005910	1.91										
					寒冷地仕様	-	相当馬力数	7.5HP以下	•	S-005911	1.19	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	COPp= (Ccr+Chr) /2 Ccr=Φ crr/(Gcr+Pcr/(3600/9760)), Chr=Φ hr/(Ghr+Phr/(3600/9760)) Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力 (kW) Φhr: 定格暖房標準能力(kW) Gcr: 定格 冷房標準ガス消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準ガ ス消費量(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力 (kW) Phr: 定格暖房標準消費電力(kW) ※ COPplは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目ま でを表示する。	JRA4067:201 5または JISB8627:20 06	いずれもガ スヒートポ ンプ冷暖房 機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。た だし、電源の周波数は、50Hzとする。						
								7.5HP超10HP以下	•	S-005912	1.22															
								10HP超16HP以下	•	S-005913	1.34															
								16HP超25HP以下	○	S-005914	1.34															
								25HP超	○	S-005915	1.27															
												-	7.5HP以下	-	S-005916	-	-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:20 15	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	
												•	7.5HP超10HP以下	•	S-005917	1.39										
												○	10HP超16HP以下	○	S-005918	1.86										
												•	16HP超25HP以下	•	S-005919	1.93										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明				
						25HP超			●	S-005920	1.85													
						発電機付 相当馬力数	7.5HP以下		-	S-005921	-	-	COPp	標準規格 による評 価	-	-	$COPp = (Ccr + Chr) / 2$ $Ccr = \Phi / (Gcr + Pcr / (3600 / 9760))$ $Chr = \Phi / (Ghr + Phr / (3600 / 9760))$ Ccr: 冷房成績係数 Chr: 暖房成績係数 Φcr: 定格冷房標準能力 (kW) Φhr: 定格暖房標準能力 (kW) Gcr: 定格冷房標準ガス 消費量(kW) Ghr: 定格暖房標準 消費電力(kW) Pcr: 定格冷房標準消費電力 (kW) Phr: 定格暖房標準消費電力 (kW) ※ COPpは、小数点3桁目を切捨て、 小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:2015 または JISB8627:2006	いずれもガ スヒートボ ンプ冷暖房 機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。た だし、電源の周波数は、50Hzとする。				
						7.5HP超10HP以下		-	S-005922	-														
						10HP超16HP以下		●	S-005923	1.34														
						16HP超25HP以下		●	S-005924	1.34														
						25HP超		●	S-005925	1.27														
						7.5HP以下		-	S-005926	-	-	-	期間成績係 数 (APFp)	標準規格 による評 価	JISB8627:2015	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015	ガスヒート ポンプ冷暖 房機	JISB8627:2015に準拠				
						7.5HP超10HP以下		-	S-005927	-														
						10HP超16HP以下		●	S-005928	1.86														
						16HP超25HP以下		●	S-005929	1.97														
						25HP超		●	S-005930	1.91														
L-001302	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージア コン(店舗・オ フィス用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空調機で、冷房能力が4~28kW程度。主に店舗・オフィス向け。	冷房能力	4.0kW以下		○	S-005931	7.7	-	通年エネル ギー消費効 率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:2015	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:2015	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠				
							4.0kW超 5.0kW以下		○	S-005932	7.5													
							5.0kW超 6.3kW以下		○	S-005933	7.3													
							6.3kW超 11.2kW以下		●	S-005934	7.3													
							11.2kW超 16.0kW以下		●	S-005935	6.9													
							16.0kW超		●	S-005936	6.3													
L-001303	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 個別方 式)	パッケージア コン(設備用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空調機で、冷房能力が9~140kW程度。主に工場向け。	冷房能力	28kW以下		●	S-005937	5	-	通年エネル ギー消費効 率 (APF)	標準規格 による評 価	JISB8616:2015	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:2015	パッケージ エアコン ディショナ	JISB8616:2015に準拠				
							28kW超 45kW以下		●	S-005938	4.2													
							45kW超 56kW以下		●	S-005939	4.3													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標						
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件	
												単位	名称		標準規格	規格の名称	標準規格	規格の名称
						350RT以上400RT未満	•	S-005980	6.28 *									
						400RT以上500RT未満	•	S-005981	6.6 *									
						500RT以上600RT未満	•	S-005982	6.5 *									
						600RT以上700RT未満	•	S-005983	6.36 *									
						700RT以上1000RT未満	•	S-005984	6.45 *									
						1000RT以上1500RT未満	•	S-005985	6.61 *									
						1500RT以上	•	S-005986	6.66 *									
L-001309	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)	自然冷媒ターボ 冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝縮器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。従来はHFC冷媒が使用されるケースが多いが、本設備・機器等は自然冷媒である水が使用されている。公共スペース、地下街、及び医療機関での使用が期待されている。	冷却能力	-	S-005987	7.36 *	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:20 11	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠
						300RT以上400RT未満	-	S-005988	-									
L-001310	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)	水冷ヒートポン プチラー	水を熱源としたヒートポンプ方式の水冷式チリングユニット。	冷却能力	•	S-005989	4.48	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
						40.0kW以下	○	S-005990	4.28									
						80.0kW超118.0kW以下	•	S-005991	5.41									
						118.0kW超180.0kW以下	•	S-005992	5.28									
						180.0kW超500.0kW以下	○	S-005993	5.57									
						500.0kW超1000.0kW以下	•	S-005994	6									
						1000.0kW超1500.0kW以下	○	S-005995	5.22									
					ブライン仕様、ブライン入口温度3℃、ブライン出口温度0℃	冷却能力	•	S-005996	3.28	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:19 94または JRA4066:201 4	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については3℃、ブライン出口温度については0℃とする。
						40.0kW超80.0kW以下	•	S-005997	2.65									
						80.0kW超118.0kW以下	-	S-005998	-									
						118.0kW超180.0kW以下	-	S-005999	-									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称
						180.0kW超500.0kW以下	-	S-006000	-										
						500.0kW超1000.0kW以下	-	S-006001	-										
						1000.0kW超1500.0kW以下	-	S-006002	-										
					ブライン仕様、ブライン入口温度-3℃、ブライン出口温度-7℃	冷却能力	40.0kW以下	●	S-006003	2.24	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-3℃、ブライン出口温度については-7℃とする。
						40.0kW超80.0kW以下	●	S-006004	2.61										
						80.0kW超118.0kW以下	●	S-006005	2.54										
						118.0kW超180.0kW以下	●	S-006006	2.53										
						180.0kW超500.0kW以下	●	S-006007	2.49										
						500.0kW超1000.0kW以下	-	S-006008	-										
						1000.0kW超1500.0kW以下	-	S-006009	-										
					ブライン仕様、ブライン入口温度0℃、ブライン出口温度-5℃	冷却能力	40.0kW以下	○	S-006010	2.37	-	成績係数(COP)	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については0℃、ブライン出口温度については-5℃とする。
						40.0kW超80.0kW以下	○	S-006011	2.9										
						80.0kW超118.0kW以下	●	S-006012	3.2										
						118.0kW超180.0kW以下	●	S-006013	3.21										
						180.0kW超500.0kW以下	●	S-006014	3.21										
						500.0kW超1000.0kW以下	●	S-006015	2.72										
						1000.0kW超1500.0kW以下	-	S-006016	-										
L-001311	産業・業務(業種共通)	空調/産業用プロセス	熱源・空調機(ヒートポンプ・中央方式)	空冷ヒートポンプチラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空冷式チリングユニット。	冷却能力	19.0kW以下	○	S-006017	5.2	-	期間成績係数(IPLV)	標準規格による評価	JRA4066:2017	ウォータチリングユニット	JRA4066:2017に準拠	JRA4066:2017	ウォータチリングユニット	JRA4066:2017に準拠
						19.0kW超25.0kW以下	○	S-006018	5.1										
						25.0kW超37.5kW以下	○	S-006019	5.1										
						37.5kW超50.0kW以下	○	S-006020	5.1										
						50.0kW超60.0kW以下	-	S-006021	-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明				
						90.0kW超120.0kW以下	○	S-006043	2.75															
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-006044	-															
						160.0kW超	-	S-006045	-															
					ブライン仕様、ブライン入口温度-2℃、ブライン出口温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	●	S-006046	2.78	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠。た だし、ブライン入口温度については-2℃、ブライ ン出口温度については-5℃とする。					
						60.0kW超90.0kW以下	○	S-006047	2.78															
						90.0kW超120.0kW以下	○	S-006048	2.72															
						120.0kW超160.0kW以下	○	S-006049	2.63															
						160.0kW超	○	S-006050	2.72															
					ブライン仕様、ブライン入口温度3℃、ブライン出口温度0℃	冷却能力	60.0kW以下	●	S-006051	2.45	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠。た だし、ブライン入口温度については3℃、ブライ ン出口温度については0℃とする。					
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-006052	-															
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-006053	-															
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-006054	-															
						160.0kW超	-	S-006055	-															
					ブライン仕様、ブライン入口温度-3℃、ブライン出口温度-7℃	冷却能力	60.0kW以下	●	S-006056	3.08	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠。た だし、ブライン入口温度については-3℃、ブライ ン出口温度については-7℃とする。					
						60.0kW超90.0kW以下	○	S-006057	2.82															
						90.0kW超120.0kW以下	○	S-006058	2.68															
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-006059	-															
						160.0kW超	-	S-006060	-															
					寒冷地仕様	冷却能力	60.0kW以下	-	S-006061	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠					
						60.0kW超90.0kW以下	-	S-006062	-															
						90.0kW超120.0kW以下	-	S-006063	-															
						120.0kW超160.0kW以下	-	S-006064	-															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス	認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類							条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
													単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明
							-	S-006065	-												
							-	S-006066	-		成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠			
							-	S-006067	-												
							-	S-006068	-												
							●	S-006069	3.42												
							-	S-006070	-												
					出口温度60℃ 寒冷地仕様	加熱能力		S-006071	-		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠。た だし、出口温度は60℃とする。			
							-	S-006072	-												
							●	S-006073	2.51												
							●	S-006074	2.58												
							○	S-006075	2												
					寒冷地仕様、散水式	冷却能力		S-006076	-		期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠			
							-	S-006077	-												
							-	S-006078	-												
							-	S-006079	-												
							-	S-006080	-												
							-	S-006081	-		成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠			
							-	S-006082	-												
							-	S-006083	-												
							●	S-006084	4.12												
							-	S-006085	-												
						散水式		S-006086	-		期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)				クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	準拠する規格	規格の名称	説明
					冷房専用、ブライン仕様、 ブライン入口温度-2℃、ブ ライン出口温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	●	S-006130	2.78	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠。た だし、ブライン入口温度については-2℃、ブライ ン出口温度については-5℃とする。
					60.0kW超90.0kW以下	○	S-006131	2.78											
					90.0kW超120.0kW以下	○	S-006132	2.72											
					120.0kW超160.0kW以下	-	S-006133	-											
					160.0kW超	-	S-006134	-											
					冷房専用、散水式	冷却能力	60.0kW以下	-	S-006135	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠。
					60.0kW超90.0kW以下	●	S-006136	6.6											
					90.0kW超120.0kW以下	●	S-006137	6.4											
					120.0kW超160.0kW以下	●	S-006138	6.1											
					160.0kW超	●	S-006139	6											
					60.0kW以下	○	S-006140	4.86				成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠。
					60.0kW超90.0kW以下	●	S-006141	6.2											
					90.0kW超120.0kW以下	●	S-006142	5.46											
					120.0kW超160.0kW以下	○	S-006143	4.86											
					160.0kW超	○	S-006144	6											
					冷房専用、冷水出入口温度 差7℃	冷却能力	60.0kW以下	-	S-006145	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。
					60.0kW超90.0kW以下	●	S-006146	6											
					90.0kW超120.0kW以下	●	S-006147	6											
					120.0kW超160.0kW以下	●	S-006148	5.7											
					160.0kW超	●	S-006149	5.6											
					60.0kW以下	○	S-006150	4.01				成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。
					60.0kW超90.0kW以下	○	S-006151	4.14											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
						90.0kW超120.0kW以下			●	S-006152	3.86									
						120.0kW超160.0kW以下			●	S-006153	3.5									
						160.0kW超			●	S-006154	3.61									
					冷房専用、冷水出入口温度 差7℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下		-	S-006155	-	-	期間成績係 数 (IPLV)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。
						60.0kW超90.0kW以下			●	S-006156	7									
						90.0kW超120.0kW以下			●	S-006157	6.7									
						120.0kW超160.0kW以下			●	S-006158	6.5									
						160.0kW超			●	S-006159	6.3									
						60.0kW以下			○	S-006160	5.04		成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠	JISB8613:20 19または JRA4066:201 7	いずれも ウォータチ リングユ ニット	JISB8613:2019またはJRA4066:2017に準拠。た だし、冷水出入口温度差については7℃とする。
						60.0kW超90.0kW以下			●	S-006161	6.39									
						90.0kW超120.0kW以下			●	S-006162	5.65									
						120.0kW超160.0kW以下			○	S-006163	5.04									
						160.0kW超			○	S-006164	6.3									
L-001313	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機 (ヒート ポンプ・ 中央方 式)・熱 交換機	氷蓄熱ユニット	中央方式の空調機における熱源機とは別に氷蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、氷蓄熱槽の熱交換器で氷を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を氷蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることによって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大活用に資することが期待される。	定格日量冷却能力	1000kW h 以下		-	S-006165	-	-	日量成績係 数	標準規格 による評 価	JRA4044:200 5	氷蓄熱ユ ニット	JRA4044:2005に準拠	JRA4044:200 5	氷蓄熱ユ ニット	JRA4044:2005に準拠
							1000kW h 超2000kWh以下		-	S-006166	-									
							2000kWh超3000kWh以下		-	S-006167	-									
							3000kWh超4000kWh以下		-	S-006168	-									
							4000kWh超5000kWh以下		-	S-006169	-									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
											単位	名称		標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	説明			
L-001315	産業・業 務(業種 共通)	空調	熱源・空 調機(気 化式・中 央方式)	間接気化式冷却 器	間接気化式冷却器は、隔壁で仕切られたDRY流路とWET流路を 多数積層した構造からなる。WET側の隔壁面は水を浸した湿潤 壁である。ここでDRY流路に高温空気をWET流路には低温空気 又は常温空気を流すことで、WET流路で気化熱現象を生じさ せ、隔壁の温度が低下するため隣り合うDRY流路を流れる空気の 熱が隔壁に伝達し絶対湿度の移行がなく冷却される。この冷却に 用いるエネルギーは搬送動力と気化蒸発に使用する水のみのため、 省エネ性が高く、CO2排出量を削減できる機器である。既に 食品工場・生産工場・ショッピングセンターを中心に導入が進ん でおり、今後データセンター向けに更なる普及が期待される。	-	冷房能力	5000kWh超	-	S-006170	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
								14.0kW以下	•	S-006171	34.4 *	-	成績係数 (COP)	シミュ レーション による 評価	JRA4066:201 4	ウォータチ リングユ ニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:201 4及び JISB8615-2: 2015	ウォータチ リングユ ニット及び エアコン ディショナ 第2:ダクト 接続形エア コンディ ショナと空 気対空 気ヒートポン プ 定格性能 及び運転性 能試験	JRA4066:2014及びJISB8615-2: 2015に準拠	
								14.0kW超16.0kW以下	•	S-006172	34.5 *										
								16.0kW超22.4kW以下	•	S-006173	34.8 *										
								22.4kW超28.0kW以下	•	S-006174	34.9 *										
								28.0kW超33.5kW以下	•	S-006175	34.9 *										
								33.5kW超40.0kW以下	•	S-006176	35 *										
								40.0kW超60.0kW以下	•	S-006177	35.2 *										
								60.0kW超80.0kW以下	•	S-006178	35 *										
								80.0kW超100.0kW以下	•	S-006179	35.1 *										
								100.0kW超120.0kW以下	•	S-006180	35.2 *										
								120.0kW超140.0kW以下	•	S-006181	35.1 *										
								140.0kW超160.0kW以下	•	S-006182	35.1 *										
								160.0kW超200.0kW以下	•	S-006183	35.1 *										
								200.0kW超240.0kW以下	•	S-006184	35.1 *										
								240.0kW超280.0kW以下	•	S-006185	35.1 *										
							分流量	冷却能力	14.0kW以下	•	S-006186	11.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	JRA4066:201 4およびJIS B 8615-2	ウォータチ リングユ ニットおよ びエアコン ディショナ	標準条件による評価	JRA4066:201 4およびJIS B 8615-2	ウォータチ リングユ ニットおよ びエアコン ディショナ	日本冷凍空調工業会、又は日本規格協会の指定 の規格によって試験および効率の計算を行う。 ただし、本設備は水熱源としながらもヒートポン プがないため、一部抜粋での試験条件とし、 新たな試験項目は追加する。【空気条件】 JIS B
								14.0kW超16.0kW以下	•	S-006187	11 *										
								16.0kW超22.4kW以下	•	S-006188	11 *										
								22.4kW超28.0kW以下	•	S-006189	11.1 *										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
												単 位	名 称		計算式		準拠する規格	規格の名称	説明
						28.0kW超33.5kW以下	•	S-006190	11*										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件								
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明						
						33.5kW超40.0kW以下			●	S-006191	11 *															
						40.0kW超60.0kW以下			●	S-006192	11 *															
						60.0kW超80.0kW以下			●	S-006193	11 *															
						80.0kW超100.0kW以下			●	S-006194	11 *															
						100.0kW超120.0kW以下			●	S-006195	11 *															
						120.0kW超140.0kW以下			●	S-006196	11 *															
						140.0kW超160.0kW以下			●	S-006197	11 *															
						160.0kW超200.0kW以下			●	S-006198	11 *															
L-001316	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	吸収冷温水機 (二重効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 高温、低温再生器を有するもの。	節電型(冷却水量原単位 0.7m ³ /h、RT以下)、冷水入 口温度15°C、冷水出口温度 7°C	冷房能力	80RT以下 80RT超1000RT以下 1000RT超	○ ● ●	S-006199 S-006200 S-006201	1.48 * 1.48 * 1.41 *	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠						
						冷水入口温度12°C、冷水出 口温度7°C	冷房能力	80RT以下 80RT超1000RT以下 1000RT超	○ ● ●	S-006202 S-006203 S-006204	1.48 1.48 1.48	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠						
L-001317	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	吸収冷温水機 (三重効用) / 廃熱投入型吸収 冷温水機(三重 効用)	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 高温、中温、低温再生器を有するもの。	冷水入口温度12°C、冷水出 口温度7°C	-	-	●	S-006205	1.74	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠						
L-001318	産業・業 務(業種 共通)	空調/産業 用プロセス	熱源・空 調機(吸 収式・中 央方式)	一重二重併用形 吸収冷温水機	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用 して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、 排熱を熱源として利用し、燃料削減率が20%以上のもの。	節電型(冷却水量原単位 0.7m ³ /h、RT以下)、冷水入 口温度15°C、冷水出口温度 7°C	冷房能力	80RT以下	○	S-006206	1.47	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:20 09または JISB8622:20 16	吸収式冷凍 機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠						

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明	
L-001325	産業・業 務(業種 共通)	給湯/産業 用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)	空気を熱源とし、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃以上70℃以下、乾球温度16℃、湿球温度12℃、温水出入口温度差5℃	-	-	●	S-006226	3.09 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃以上70℃以下、乾球温度：16℃、湿球温度：12℃、温水出入口温度差：5℃	
						温水出口温度65℃以上70℃以下、乾球温度25℃、湿球温度21℃、温水出入口温度差10℃	-	-	●	S-006227	3.63 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃以上70℃以下 乾球温度：25℃ 湿球温度：21℃ 温水出入口温度差：10℃	
						温水出口温度65℃以上70℃以下、乾球温度25℃、湿球温度21℃、温水出入口温度差5℃	-	-	●	S-006228	3.3 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃以上70℃以下 乾球温度：25℃ 湿球温度：21℃ 温水出入口温度差：5℃	
						温水出口温度60℃、乾球温度16℃、温水出入口温度差5℃	-	-	○	S-006229	3.07	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度60℃、乾球温度16℃、温水出入口温度差5℃	
L-001326	産業・業 務(業種 共通)	給湯/産業 用プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	-	-	●	S-006230	4.2 *	-	年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	標準規格による評価	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃以上70℃以下 乾球温度：25℃ 湿球温度：21℃ 温水出入口温度差：5℃	
L-001327	産業・業 務(業種 共通)	産業用 プロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式)	水を熱源とし、過心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃、熱源水入口温度17℃、熱源水出口温度7℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	●	S-006231	3.4 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃	
						270kW超350kW以下	-	S-006232	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						350kW超540kW以下	●	S-006233	3.2 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
						540kW超	-	S-006234	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
温水出口温度65℃、熱源水入口温度17℃以上30℃以下、熱源水出口温度7℃以上20℃以下、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	●	S-006235	4.3 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：17℃以上30℃以下 熱源水出口温度：7℃以上20℃以下 温水出入口温度差：10℃				
270kW超350kW以下	-	S-006236	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
350kW超540kW以下	●	S-006237	4.4 *	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
540kW超	-	S-006238	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
温水出口温度65℃、熱源水入口温度20℃、熱源水出口温度15℃以上17℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	●	S-006239	3.6 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	-	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：20℃、熱源水出口温度：15℃以上17℃以下、温水出入口温度差：5℃				
270kW超350kW以下	-	S-006240	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	試験条件		標準規格	規格の名称	計算方法	試験条件	説明
												単 位	名 称		標準規格	規格の名称					
						350kW超540kW以下			● S-006241	3.7 *											
						540kW超			- S-006242	-											
					温水出口温度65℃、熱源水 入口温度30℃、熱源水出口 温度25℃以上30℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下		● S-006243	4.2 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度： 30℃ 熱源水出口温度：25℃以上30℃以下 温水出 入口温度差：5℃		
						270kW超350kW以下			- S-006244	-											
						350kW超540kW以下			- S-006245	-											
						540kW超		● S-006246	4.8 *												
					温水出口温度65℃、熱源水 入口温度38℃以上40℃以 下、熱源水出口温度35℃、 温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下		● S-006247	5.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度： 38℃以上40℃以下 熱源水出口温度：35℃ 温水出 入口温度差：5℃		
						270kW超350kW以下			- S-006248	-											
						350kW超540kW以下			- S-006249	-											
						540kW超			- S-006250	-											
					温水出口温度65℃、熱源水 入口温度40℃、熱源水出口 温度30℃、温水出入口温度 差10℃	加熱能力	270kW以下		● S-006251	4.9 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度： 40℃ 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差： 10℃		
						270kW超350kW以下			- S-006252	-											
						350kW超540kW以下			- S-006253	-											
						540kW超		● S-006254	5.8 *												
					温水出口温度75℃、熱源水 入口温度20℃、熱源水出口 温度15℃以上17℃以下、温 水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下		● S-006255	3.1 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度： 20℃ 熱源水出口温度：15℃以上17℃以下 温水出 入口温度差：5℃		
						270kW超350kW以下			- S-006256	-											
						350kW超540kW以下			- S-006257	-											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)				クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件								
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明					
							540kW超	-	S-006258	-															
						温水出口温度75℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度20℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	●	S-006259	3.7 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-					成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：20℃ 温水出入口温度差：10℃	
							270kW超350kW以下	-	S-006260	-															
							350kW超540kW以下	-	S-006261	-															
							540kW超	-	S-006262	-															
						温水出口温度75℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度25℃以上27℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	●	S-006263	3.7 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-					成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上27℃以下 温水出入口温度差：5℃	
							270kW超350kW以下	-	S-006264	-															
							350kW超540kW以下	-	S-006265	-															
							540kW超	-	S-006266	-															
						温水出口温度75℃、熱源水入口温度35℃以上40℃以下、熱源水出口温度30℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	○	S-006267	3.9 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-					成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：35℃以上40℃以下 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃	
							270kW超350kW以下	●	S-006268	4.3 *															
							350kW超540kW以下	-	S-006269	-															
							540kW超	-	S-006270	-															
						温水出口温度75℃、熱源水入口温度40℃、熱源水出口温度35℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	●	S-006271	4.44 *	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-					成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃	
							270kW超350kW以下	-	S-006272	-															
							350kW超540kW以下	-	S-006273	-															
							540kW超	-	S-006274	-															
						温水出口温度90℃、熱源水入口温度17℃、熱源水出口温度7℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	-	S-006275	-	-	成績係数(COP)	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-					成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス	認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標										
	部門1	部門2	技術分類							条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算法		試験条件		
													単 位	名 称		標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称
							● S-006276	2.75 *												
						270kW超350kW以下	- S-006277	-												
						540kW超	- S-006278	-												
					温水出口温度90℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度25℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力 270kW以下	- S-006279	-	成績係数(COP)	標準条件による評価							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃熱源水入口温度：30℃熱源水出口温度：25℃ 温水出入口温度差：5℃			
						270kW超350kW以下	● S-006280	3.1 *												
						350kW超540kW以下	- S-006281	-												
						540kW超	- S-006282	-												
					温水出口温度90℃、熱源水入口温度40℃、熱源水出口温度30℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力 270kW以下	● S-006283	3 *	成績係数(COP)	標準条件による評価							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃熱源水入口温度：40℃熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃			
						270kW超350kW以下	- S-006284	-												
						350kW超540kW以下	● S-006285	3.5 *												
						540kW超	- S-006286	-												
					温水出口温度90℃、熱源水入口温度40℃、熱源水出口温度35℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力 270kW以下	- S-006287	-	成績係数(COP)	標準条件による評価							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：90℃熱源水入口温度：40℃熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃			
						270kW超350kW以下	- S-006288	-												
						350kW超540kW以下	- S-006289	-												
						540kW超	- S-006290	-												
					温水出口温度45℃、熱源水入口温度25℃、熱源水出口温度12.5℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力 270kW以下	● S-006291	4.81 *	成績係数(COP)	標準条件による評価							成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：45℃熱源水入口温度：25℃熱源水出口温度：12.5℃ 温水出入口温度差：5℃			
						270kW超350kW以下	- S-006292	-												
						350kW超540kW以下	- S-006293	-												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス	認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類							条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
													単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明
						540kW超	-	S-006294	-												
						加熱能力 温水出口温度45℃、熱源水 入口温度0℃、熱源水出口 温度-3℃、温水出入口温度 差5℃	●	S-006295	3.06 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度:45℃ 熱源水入口温度: 0℃ 熱源水出口温度:-3℃ 温水出入口温度差: 5℃			
						270kW超350kW以下	-	S-006296	-												
						350kW超540kW以下	-	S-006297	-												
						540kW超	-	S-006298	-												
L-001328	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートボ ンプ(水熱源・一 過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、 水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	-	●	S-006299	4.3 *	-	年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠			
						水熱源運転、温水出口温度 70℃、熱源水入口温度 60℃、熱源水出口温度 38.6℃、温水出入口温度差 50℃	-	●	S-006300	10.2 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度:70℃ 熱源水入口温度: 60℃ 熱源水出口温度:38.6℃ 温水出入口温度 差:50℃		
						水熱源運転、温水出口温度 70℃、熱源水入口温度 35℃、熱源水出口温度 25℃、温水出入口温度差 50℃	-	●	S-006301	6.2 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度:70℃、熱源水入口温 度:35℃、熱源水出口温度:25℃、温水出入口 温度差:50℃		
						水熱源運転、温水出口温度 60℃、熱源水入口温度 25℃、熱源水出口温度 15℃、温水出入口温度差 40℃	-	○	S-006302	4.6 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度:60℃、熱源水入口温 度:25℃、熱源水出口温度:15℃、温水出入口 温度差:40℃		
L-001329	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートボ ンプ(水空気熱 源・循環式)	空気、または水を熱源とでき、循環式の供給方式が可能なヒート ポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユ ニットを含まないもの。	-	●	S-006303	3.2 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を 以下のとおり設定することを条件とする。温水 出口温度:65℃ 乾球温度:25℃ 湿球温度:21℃ 温水出入口温度差:5℃			
						水熱源運転、温水出口温度 65℃、熱源水入口温度20℃ 以下、熱源水出口温度15℃ 以下、温水出入口温度差 5℃	-	●	S-006304	3.6 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を次のとおり設定することを条件と する。温水出口温度:65℃、熱源水入口温度: 20℃以下、熱源水出口温度:15℃以下、温水出 入口温度差:5℃		
						水熱源運転、温水出口温度 75℃、熱源水入口温度 17℃、熱源水出口温度 7℃、温水出入口温度差 10℃	-	○	S-006305	3.05 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度:75℃ 熱源水入口温度: 17℃ 熱源水出口温度:7℃ 温水出入口温度差: 10℃		
L-001330	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	高温水ヒートボ ンプ(水空気熱 源・一過式)	空気、または水を熱源とでき、一過式の供給方式が可能なヒート ポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユ ニットを含まないもの。	-	○	S-006306	4.2 *	-	成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法	準拠する規格	規格の名称	試験条件	
												単位	名称							単位	名称
										S-006307	3.9 *		成績係数 (COP)	標準規格 による評 価			COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	
L-001331	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	熱風ヒートポン プ(空気熱源・一 過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式 で、高温の熱風を発生させる装置				○	S-006308	3.5		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価			COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]			成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入 口温度、熱風供給温度、外気温度(乾球温度/湿 球温度)を次のとおり、設定することを条件と する。空気入口温度:20℃、熱風供給温度: 80℃、外気温度(乾球温度/湿球温度)25℃/21℃ とする。	
L-001332	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	熱風ヒートポン プ(水熱源・一過/ 循環式)	水を熱源とし、一過/循環式の供給方式を用いるヒートポンプ方 式で、高温の熱風を発生させる熱源装置。	一過式				●	S-006309	3.7		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価			COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]			成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温 度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出 口温度を次のとおり設定することを条件とす る。空気入口温度:20℃、熱風供給温度: 100℃、熱源水入口温度:30℃、熱源水出口温 度:25℃
						循環式				●	S-006310	3.5		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価			COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]			成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温 度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出 口温度を次のとおり設定することを条件とす る。空気入口温度:50℃、熱風供給温度: 60℃、熱源水入口温度:30℃、熱源水出口温 度:25℃
						水熱源運転、温水出口温度 70℃、熱源水入口温度 50℃、熱源水出口温度 38.6℃、温水出入口温度差 50℃				-	S-006311	-		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価			COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]			成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温 度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出 入口温度差を以下のとおり設定することを条件 とする。温水出口温度:70℃熱源水入口温度: 50℃熱源水出口温度:38.6℃温水出入口温度 差:50℃
L-001333	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	蒸気発生ヒート ポンプ(水熱源・ 一過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、 蒸気を発生させる熱源装置。	蒸気圧力0.1MPaG、熱源水 入口温度65℃、熱源水出口 温度60℃				○	S-006312	3.53 *		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価			COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]			成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、 熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり 設定することを条件とする。蒸気圧力: 0.1MPaG、熱源水入口温度:65℃、熱源水出口 温度:60℃
						蒸気圧力0.1MPaG、熱源水 入口温度80℃、熱源水出口 温度70℃				-	S-006313	-		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価			COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]			成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、 熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり 設定することを条件とする。蒸気圧力: 0.1MPaG熱源水入口温度:80℃熱源水出口温 度:70℃
						蒸気圧力0.6MPaG、熱源水 入口温度70℃、熱源水出口 温度65℃				○	S-006314	2.46 *		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価			COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]			成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、 熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり 設定することを条件とする。蒸気圧力: 0.6MPaG熱源水入口温度:70℃熱源水出口温 度:65℃
L-001334	産業・業 務(業種 共通)	産業用プ ロセス	熱源 (ヒート ポンプ)	蒸気再圧縮装置	産業プロセス等で利用された排熱を回収し、循環式の供給方式を 用いるヒートポンプ。低圧の蒸気を圧縮して再利用することで、 ボイラ等の蒸気を利用する設備・機器等の省エネを実現可能。	吐出圧力0.1MPaG以上 0.2MPaG以下、吐出蒸気量 1.0ton/h以上2.0ton/h以下、 給水温度80℃				●	S-006315	0.067 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件 による評 価			消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量 [kg/h]			消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐 出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定するこ とを条件とする。吐出圧力:0.1MPaG以上 0.2MPaG以下、吐出蒸気量:1.0ton/h以上2.0ton/h 以下、給水温度:80℃
						吐出圧力0.1MPaG以上 0.3MPaG以下、吐出蒸気量 3.0ton/h以上、給水温度 80℃				●	S-006316	0.064 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件 による評 価			消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量 [kg/h]			消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐 出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定するこ とを条件とする。吐出圧力:0.1MPaG以上 0.3MPaG以下 吐出蒸気量:3.0ton/h以上 給水温 度:80℃
						吐出圧力0.4MPaG以上、吐 出蒸気量1.0ton/h以上 1.5ton/h以下、給水温度 80℃				●	S-006317	0.085 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件 による評 価			消費電力量=システム消費電力[kW]/吐出蒸気量 [kg/h]			消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐 出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定するこ とを条件とする。吐出圧力:0.4MPaG以上 吐出 蒸気量:1.0ton/h以上1.5ton/h以下 給水温度: 80℃
L-001336	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調機 (ベレッ トストー プ)	密閉式ベレット ストーブ	木質ベレットを燃料とする燃焼機器。木質ベレットを燃焼させた 熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の 隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気さ せるため、室内の空気と交わることはなく、清潔な環境を保つこ とができる。木質ベレットは、カーボンニュートラルであるた め、CO2の排出削減が可能。				●	S-006318	77 *	%	熱効率	標準条件 による評 価	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	JHIAN-5601:2004に準拠、試験実施にあたって は、ISO17025に準拠した試験機関による性能評 価を行うこととする。		
L-001337	産業・業 務(業種 共通)	空調	空調フィ ルタ	空調用ハイブ リッドフィルタ	空調機に設置する中性性能フィルタを従来のプレ+中性能から低圧 損洗浄再生中性性能フィルタとすることにより、送風機の運転静圧 を低下させ、インバータ装置による回転数制御方式を駆使するこ とにより、電動機の軸動力を低減させる技術	定格風量	28m3/min		●	S-006319	0.25 *	kW	空調機ファン 動力	シミュ レーシ ョンに よる評 価			W=axQ・ΔP+b×(r/r0) ^d +c、W:ファン動力 [kW]、Q:ΔP:風量×フィルタ圧損 [m3Pa/s]、r:ファン回転数 [rpm]、r0:定 格回転数 [rpm]、a: -0.000222、b: 3.296、 c: 0.238、d: 2.8			空調方式:変風量方式、設計風量:103m3/min (1.72m3/s)、初期圧損:100Pa、最終圧損: 255Pa、平均圧損:185Pa、その他:フィルタ2 枚使用、実抵抗は風量比の1.1乗に比例するもの して補正、フィルタ圧損以外の管路抵抗は一 定、管路抵抗は風量の2乗に比例、空調負荷率は 100%風量の発生率1%、75%風量の発生率 42%、60%風量の発生率57%	
							56m3/min		●	S-006320	0.5 *										
L-001338	産業・業 務(業種 共通)	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ)	ヒートポンプ給 湯機(空気熱源)	空気を熱源とするヒートポンプ方式の給湯機。貯湯ユニットを含 むもの。	加熱能力	10kW以下		●	S-006321	4.2		年間標準貯 湯加熱エネ ルギー消費 効率	標準規格 による評 価	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:201 4	業務用ヒー トポンプ給 湯機	JRA4060:2014に準拠	
							10kW超20kW以下		●	S-006322	4.2										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
											単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格	規格の名称	説明
						20kW超30kW以下	●	S-006323	3.9									
						30kW超40kW以下	○	S-006324	3.8									
						40kW超50kW以下	○	S-006325	3.8									
						50kW超	●	S-006326	3.8									
					寒冷地仕様	加熱能力	10kW以下	●	S-006327	3.5	寒冷地年間 標準貯湯加 熱エネルギー 消費効率 率	標準規格 による評価	JRA4060:2014	業務用ヒート ポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:2014	業務用ヒート ポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠
						10kW超20kW以下	●	S-006328	3.5									
						20kW超30kW以下	○	S-006329	3.5									
						30kW超40kW以下	○	S-006330	3.4									
						40kW超50kW以下	○	S-006331	3.3									
						50kW超	●	S-006332	3.3									
L-001340	産業・業務 (業種 共通)	給湯	給湯器 (ガス 式)	潜熱回収型給湯器	バーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。潜熱回収型は、従来捨てられていた燃焼排熱を潜熱回収する。	-	-	●	S-006333	95	% 熱効率	標準規格 による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス 温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2109:2010R	家庭用ガス 温水機器	JISS2109:2010Rに準拠
L-001341	産業・業務 (業種 共通)	給湯	ボイラ	温水機	燃焼室、伝熱面、熱交換器からなる。燃焼によって温められた熱媒水と給水管の水とを熱交換させ、その温水を取り出して利用する。熱媒水を真空状態に密閉した状態で沸騰させる真空式と、熱媒水を大気に開放した状態で温める無圧式が存在する。	出力	1000kW未満	●	S-006334	96	% ボイラ効率	標準規格 による評価	JISB8222-1993、 JISB8417:2000、または JISB8418:2000 (あるいは、 HA-008:2015またはHA-010:2015)	陸用ボイラ熱動方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機 (あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠 (あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015に準拠)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000 (あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015)	陸用ボイラ熱動方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機 (あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠 (あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015に準拠)
						1000kW以上2000kW未満	●	S-006335	91									
						2000kW以上	●	S-006336	91									
					潜熱回収型、LPG焚き	出力	1000kW未満	●	S-006337	103	% ボイラ効率	標準規格 による評価	JISB8222-1993、 JISB8417:2000または JISB8418:2000 (あるいは、 HA-035:2017またはHA-036:2017)	陸用ボイラ熱動方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機 (あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠 (あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017に準拠)	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000 (あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017)	陸用ボイラ熱動方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機 (あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017)	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠 (あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017に準拠)
						1000kW以上2000kW未満	-	S-006338	-									
						2000kW以上	-	S-006339	-									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	試験条件	
												単位	名称							単位	名称
						潜熱回収型、都市ガス13A 焚き	出力	1000kW未満	● S-006340	105	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00または JISB8418:20 00(あるい は、HA- 035:2017ま たはHA- 036:2017)	陸用ボイ ラ熱動定 方式、真空 式温水発生 機、または 無圧式温水 発生機(あ るいは、ガ ス潜熱回 収型真空式 温水発生機 またはガス 林燃熱回収	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠(あるいは、HA-035:2017 またはHA-036:2017に準拠)	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00または JISB8418:20 00(あるい は、HA- 035:2017ま たはHA- 036:2017)	陸用ボイ ラ熱動定 方式、真空 式温水発生 機、または 無圧式温水 発生機(あ るいは、ガ ス潜熱回 収型真空式 温水発生機 またはガス 林燃熱回収	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠(あるいは、HA-035:2017 またはHA-036:2017に準拠)		
						1000kW以上2000kW未満	-	S-006341	-												
						2000kW以上	-	S-006342	-												
						燃料：木質バイオマス	出力	100kW以上200kW未満	● S-006343	90	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	HA-034-2： 2015または HA-034-1： 2015	日本暖房機 器工業会規 格HA	JISB8222-1993、HA-034-2:2015、HA-034-1:2015 に準拠	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00、 JISB8418:20 00またはHA	陸用ボイ ラ熱動定 方式、真空 式温水発生 機、無圧式 温水発生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、JISB8418:2000 またはHA-034-2:2015に準拠		
								200kW以上300kW未満	● S-006344	90											
								300kW以上400kW未満	● S-006345	90											
								400kW以上500kW未満	● S-006346	90											
								500kW以上600kW未満	● S-006347	90											
						燃料：薪	出力	100kW未満	○ S-006348	90	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	HA-034-2： 2015または HA-034-1： 2015	日本暖房機 器工業会規 格HA	JISB8222-1993、HA-034-2：2015、HA-034-1： 2015に準拠	JISB8222- 1993、 JISB8417:20 00または JISB8418:20 00	陸用ボイ ラ熱動定 方式、真空 式温水発生 機、または 無圧式温水	JISB8222-1993、JISB8417:2000、または JISB8418:2000に準拠		
								100kW以上200kW未満	● S-006349	90											
								200kW以上400kW未満	○ S-006350	85											
								400kW以上	○ S-006351	85											
L-001342	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(貫 流ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を生じさせ、その蒸気 を他に供給する装置。小型・軽量で、空調用、業務用～産業用の 幅広い業種で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満	● S-006352	98	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラ熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラ協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	陸用ボイ ラ熱動定 方式および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラ協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流 ボイラ協会が規定する「ボイラー性能表示基 準値」に準拠			
							1500kg/h以上3000kg/h未満	● S-006353	99												
							3000kg/h以上	● S-006354	99												

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件				
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称	標準規格	規格の名称	標準規格	規格の名称	説明
						潜熱回収型	蒸発量	3000kg/h未満 3000kg/h以上	● S-006355 ● S-006356	102 102	%	ボイラ効率	標準規格 による評価	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラ熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラ協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準」	陸用ボイ ラ熱動定 方式および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラ協会が 規定する 「ボイラー 性能表示基 準」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準」に準拠		
						クローズド回収型（給水温度100℃以上）、エアヒータ（空気予熱器）の搭載	（相当）蒸発量	3000kg/h未満 3000kg/h以上	● S-006357 ● S-006358	98 * 98 *	%	ボイラ効率	標準規格 による評価	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラ熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠	貫流ボイ ラ性能表示 ガイドライ ン	貫流ボイ ラ性能表示 ガイドライ ン	給水温度15℃、給気温度35℃、運転圧力は「貫流ボイラ性能表示ガイドライン」表1.効率表示圧力基準に準拠		
L-001343	産業・業 務（業種 共通）	産業用ブ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(炉 筒煙管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。中程度の出力で、主に産業用・地域冷暖房用途で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満 1500kg/h以上3000kg/h未満 3000kg/h以上7200kg/h未満 7200kg/h以上19200kg/h未 満 19200kg/h以上	● S-006359 ● S-006360 ● S-006361 ● S-006362 ● S-006363	92 92 96 96 92	%	ボイラ効率	標準規格 による評価	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラ熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラ熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠			
						潜熱回収型、都市ガス13A 焚き	蒸発量	1500kg/h未満 1500kg/h以上3000kg/h未満 3000kg/h以上	- S-006364 ○ S-006365 - S-006366	- 102 -	%	ボイラ効率	標準規格 による評価	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラ熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラ熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠		
L-001344	産業・業 務（業種 共通）	産業用ブ ロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(水 管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。高圧・大容量で、主に化学・製紙業といった産業用や、地域暖房用途で使用される。	蒸発量	1500kg/h未満 1500kg/h以上3000kg/h未満 3000kg/h以上7200kg/h未満 7200kg/h以上19200kg/h未 満 19200kg/h以上	○ S-006367 - S-006368 ● S-006369 ● S-006370 ○ S-006371	92 - 96 96 94	%	ボイラ効率	標準規格 による評価	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラ熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラ熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	規格		計算方法	標準する規格	規格の名称	試験条件	説明
												単位	名称		標準規格 による評価	規格の名称					
L-001345	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	ボイラ	水素ボイラ(貫 流ボイラ)	水素の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を生じさせ、その蒸気 を他に供給する装置。水素は燃焼時に水のみしか生成せず、CO2 を排出しないことから、炭化水素系燃料からの代替により、大幅に CO2を削減できる。現在は安価に水素が調達可能な副生水素の工 場が対象とはなっているが、将来的には水素価格の低下により広 く様々な業界で利用できると考えられる。	-	蒸発量	1500kg/h未満 1500kg/h以上3000kg/h 3000kg/h以上	○ ○ -	S-006372 S-006373 S-006374	90 95 -	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラ熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラ協会が 規定する 「ボイラ	陸用ボイ ラ熱動定 方式および 公益財団法 人日本小型 貫流ボイ ラ協会が 規定する	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流 ボイラ協会が規定する「ボイラ性能表示基 準値」に準拠	
L-001346	産業・業 務(業種 共通)	産業用ブ ロセス	ボイラ	熱媒ボイラ	沸点の高い油を伝熱媒体に使用することによって、常圧で高温が 得られる装置。熱媒の種類によって油温度を200℃以上の任意温 度にすることが容易にできるため、精度の高い温度制御が必要な 化学工業等の加熱、反応プロセスに多く用いられる。	-	出力	1000kW未満 1000kW以上2000kW未満 2000kW以上	● ● ●	S-006375 S-006376 S-006377	92 92 92	%	ボイラ効率	標準規格 による評 価	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラ熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222- 1993	陸用ボイ ラ熱動定 方式	JISB8222-1993に準拠	
L-001347	産業・業 務(業種 共通)	空調/給湯/ 産業用ブ ロセス	コージェ ネレー ション	ガスエンジン コージェネレ ーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電し、その際に生じる廃熱 を同時回収することにより、燃料を効率的に利用する熱電供給シ ステム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用 や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	5kW以下 5kW超10kW以下 10kW超25kW以下 25kW超35kW以下 35kW超250kW以下 250kW超500kW以下 500kW超750kW以下 750kW超1000kW以下 3000kW超	○ ● ● ○ ○ ○ ○	S-006378 S-006379 S-006380 S-006381 S-006382 S-006383 S-006384 S-006385 S-006386	85.5 86.5 85.5 88 90.2 83.8 87.8 87.8 87	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠	
								5kW以下 5kW超10kW以下 10kW超25kW以下	○ ○ ○	S-006387 S-006388 S-006389	29 31.5 33.5	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	標準規格		計算方法		試験条件	
												単位	名称		標準規格	規格の名称	計算式	標準規格	規格の名称	説明
						25kW超35kW以下	○	S-006390	33.5											
						35kW超250kW以下	○	S-006391	35.5											
						250kW超500kW以下	●	S-006392	41.6											
						500kW超750kW以下	●	S-006393	41.8											
						750kW超1000kW以下	●	S-006394	42.6											
						3000kW超	●	S-006395	49.8											
					50Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力	1000kW超2000kW以下	○	S-006396	87	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠	
						2000kW超3000kW以下	○	S-006397	77.5											
						1000kW超2000kW以下	●	S-006398	43.1	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠		
						2000kW超3000kW以下	●	S-006399	43.6											
					50Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力	1000kW超2000kW以下	○	S-006400	74.3	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠	
						2000kW超3000kW以下	○	S-006401	77.9											
						1000kW超2000kW以下	●	S-006402	45.5	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠		
						2000kW超3000kW以下	○	S-006403	47.8											
					60Hz	発電出力	5kW以下	●	S-006404	85.5	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠	
						5kW超10kW以下	●	S-006405	86.5											
						10kW超25kW以下	●	S-006406	85.5											
						25kW超35kW以下	●	S-006407	88											
						35kW超250kW以下	○	S-006408	90.7											

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
											単位	名称		標準規格	規格の名称	標準規格	規格の名称	説明	
						250kW超500kW以下	○	S-006409	82.1										
						500kW超750kW以下	○	S-006410	87.8										
						750kW超1000kW以下	○	S-006411	87.8										
						3000kW超	○	S-006412	87										
						5kW以下	○	S-006413	29	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠	
						5kW超10kW以下	○	S-006414	31.5										
						10kW超25kW以下	○	S-006415	33.5										
						25kW超35kW以下	○	S-006416	33.5										
						35kW超250kW以下	○	S-006417	37										
						250kW超500kW以下	●	S-006418	42										
						500kW超750kW以下	○	S-006419	41.3										
						750kW超1000kW以下	●	S-006420	42.5										
						3000kW超	●	S-006421	49.8										
					60Hz、高速エンジン (1000rpm以上)	発電出力	○	S-006422	86.5	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠	
						2000kW超3000kW以下	-	S-006423	-										
						1000kW超2000kW以下	●	S-006424	43.4	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠	
						2000kW超3000kW以下	-	S-006425	-										
					60Hz、中速エンジン (1000rpm未満)	発電出力	○	S-006426	77	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			認定 対象	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明
								2000kW超3000kW以下	○	S-006427	77.9									
								1000kW超2000kW以下	●	S-006428	45.5	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠
								2000kW超3000kW以下	○	S-006429	47.8									
L-001348	産業・業 務(業種 共通)	空調/給湯/ 産業用プ ロセス	コージェ ネレー ション	ガスタービン コージェネレー ション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	1000kW以下	●	S-006430	83	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠
								1000kW超2000kW以下	○	S-006431	84									
								2000kW超3000kW以下	●	S-006432	81.8									
								3000kW超5000kW以下	-	S-006433	-									
								5000kW超7000kW以下	-	S-006434	-									
								7000kW超10000kW以下	●	S-006435	85.2									
								10000kW超40000kW以下	○	S-006436	85.9									
								40000kW超	○	S-006437	84									
								1000kW以下	○	S-006438	18.6	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠
								1000kW超2000kW以下	●	S-006439	27.7									
								2000kW超3000kW以下	○	S-006440	28.4									
								3000kW超5000kW以下	●	S-006441	31.9									
								5000kW超7000kW以下	○	S-006442	39.3									
								7000kW超10000kW以下	●	S-006443	34.3									
								10000kW超40000kW以下	●	S-006444	39.1									
								40000kW超	○	S-006445	40.9									
						60Hz	発電出力	1000kW以下	●	S-006446	83	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISB8121:20 09	コージェネ レーション システム用 語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:20 09	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JISB8122:2009に準拠
								1000kW超2000kW以下	○	S-006447	84									
								2000kW超3000kW以下	●	S-006448	81.8									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法	準拠する規格	規格の名称	試験条件	
												単位	名称								計算式
						庫内温度-40℃超-20℃以下	冷凍能力	50kW以下	●	S-006530	2.04 *		成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 冷却水入り口温度をそれぞれ次のとおり設定す ることを条件とする。CO2温度:-37℃超-27℃以 下、冷却水入り口温度:32℃	
								50kW超 150kW以下	●	S-006531	2.32 *										
								150kW超 250kW以下	●	S-006532	2.32 *										
								250kW超	●	S-006533	2.31 *										
L-001355	産業・業 務(業種 共通)	動力他	冷凍冷蔵 機器	自然冷媒冷凍冷 蔵コンデンシン グユニット	フロン冷媒により駆動する、従来のコンデンシングユニットに対 して、CO2等の自然冷媒により駆動するコンデンシングユニット	中温用(吸込み圧力飽和温 度-10℃)、吸込ガス過熱 度10K、周囲温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下	●	S-006534	2.02		成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠	
								16.0kW超24.0kW以下	-	S-006535	-										
								24.0kW超36.0kW以下	●	S-006536	1.84										
								36.0kW超	-	S-006537	-										
						低温用(吸込み圧力飽和温 度-40℃)、吸込ガス過熱 度10K 周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	●	S-006538	1.01		成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠	
								8.0kW超12.0kW以下	-	S-006539	-										
								12.0kW超18.0kW以下	●	S-006540	0.95										
								18.0kW超	-	S-006541	-										
						中温用(吸込み圧力飽和温 度-10℃)、吸込ガス温度 18℃、空冷式の凝縮器、凝 縮器に流入空気温度32℃、 周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	●	S-006542	2.1		成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA 4019:2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠	
								8.0kW超16.0kW以下	●	S-006543	1.77										
								16.0kW超24.0kW以下	●	S-006544	1.68										
								24.0kW超36.0kW以下	●	S-006545	1.77										
								36.0kW超	-	S-006546	-										
						低温用(吸込み圧力飽和温 度-40℃)、吸込ガス温度 18℃、空冷式の凝縮器、凝 縮器に流入空気温度32℃、 周囲温度32℃	冷凍能力	4.0kW以下	●	S-006547	0.94		成績係数 (COP)	標準規格 による評 価	JRA 4019:2014	コンデンシ ングユニッ ト	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	JRA4019: 2014	コンデンシ ングユニッ ト	JRA4019: 2014に準拠	
								4.0kW超8.0kW以下	●	S-006548	0.91										
								8.0kW超12.0kW以下	●	S-006549	0.85										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス	認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類							測定単位		評価方法の タイプ	試験規格		計算方法	試験条件				
										単位	名称		標準する規格	規格の名称		計算式	標準する規格	規格の名称	説明	
条件		クラス能力(名称)		クラス能力(単位)																
									0.91											
L-001356	産業・業 務(業種 共通)	照明	照明器具	LED照明器具	発光ダイオード(LED)を光源に使用した照明器具。ただし、電気用品安全法の下でのPSEマークが付与されている製品に限る。	ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°以下	-		○	S-006560	145.4	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°超60°以下	-		○	S-006561	144	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、温白色、電球色、配光角60°超	-		○	S-006562	142.6	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°以下	-		○	S-006563	154.5	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°超60°以下	-		○	S-006564	162.4	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部:性能要求事項通、照明器具-第5部:配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)			クラス能力(単位)	認定 対象	測定単位		評価方法の タイプ	規格		計算方法	標準する規格	規格の名称	試験条件
												単位	名称		標準する規格	規格の名称				
								S-006565	160	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
								S-006566	-	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
								S-006567	-	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
								S-006568	-	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
								S-006569	-	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
								S-006570	183.6	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
								S-006571	210	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
								S-006572	172.8	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
								S-006573	171.1	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		
								S-006574	202.3	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具-第3部：性能要求事項通、照明器具-第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠		

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準規格 による評価	規格の名称	計算方法	計算式	準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明
L-001357	産業・業 務(業種 共通)	動力他	プリンタ/ 複写機	プリンタ	プリンタの印字方式の主流は、インクジェット方式と電子写真方式であるが、オフィスで主に利用されているものは印刷速度の速い、電子写真方式である。電子写真方式の印刷工程は、帯電、露光、現像、転写、定着、清掃の6工程であり、複写機と同様である。露光部分にLED(発光ダイオード)を用いたLEDプリンタもある。	カラー印刷機能無	-	-	-	S-006575	-	kWh	概念的1週間(稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間+スリープ/オフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	-	国際エネルギーギスタープログラム	国際エネルギーギスタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギーギスタープログラム	国際エネルギーギスタープログラムで定める試験条件	
						カラー印刷機能有	-	-	-	S-006576	-	kWh	概念的1週間(稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間+スリープ/オフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	-	国際エネルギーギスタープログラム	国際エネルギーギスタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギーギスタープログラム	国際エネルギーギスタープログラムで定める試験条件	
L-001358	産業・業 務(業種 共通)	動力他	プリンタ/ 複写機	複合機	複写機能、プリンタ機能、スキャナ機能、ファクシミリ機能のうち2つ以上の機能を有する機器である。	カラー複写機能無	-	-	-	S-006577	-	kWh	概念的1週間(稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間+スリープ/オフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	-	国際エネルギーギスタープログラム	国際エネルギーギスタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギーギスタープログラム	国際エネルギーギスタープログラムで定める試験条件	
						カラー複写機能有	-	-	-	S-006578	-	kWh	概念的1週間(稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間+スリープ/オフ状態の2日間)の消費電力量(TEC消費電力量)	標準規格による評価	-	国際エネルギーギスタープログラム	国際エネルギーギスタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギーギスタープログラム	国際エネルギーギスタープログラムで定める試験条件	
L-001359	産業・業 務(業種 共通)	動力他	モータ	誘導モータ	回転子、固定子ともに金属を使用し、固定子に交流電流を流して回転磁界を発生させるとともに、回転子にも誘導電流が流れて磁界が生ずることにより、回転力を得るモータ。産業機械・工作機械等に幅広く用いられる。鉄芯、巻線、冷却ファン等の改善により損失を低減し高効率化が図られている。	50Hz、200V、極数2	容量	0.75kW以下	○	S-006579	85	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-第2-1部:単一速度三相かご形誘導電	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械-第2-1部:単一速度三相かご形誘導電	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。	
								0.75kW超1.1kW以下	○	S-006580	85.5										
								1.1kW超1.5kW以下	●	S-006581	89.4										
								1.5kW超2.2kW以下	●	S-006582	89.5										
								2.2kW超3.0kW以下	-	S-006583	-										
								3.0kW超3.7kW以下	●	S-006584	89.9										
								3.7kW超4.0kW以下	-	S-006585	-										
								4.0kW超5.5kW以下	●	S-006586	91.2										
5.5kW超7.5kW以下	●	S-006587	91.5																		
7.5kW超11.0kW以下	●	S-006588	91.9																		
11.0kW超15.0kW以下	●	S-006589	92.2																		

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
												単位	名称		標準規格	規格の名称	標準規格	規格の名称	説明
						15.0kW超18.5kW以下	• S-006590	93.1											
						18.5kW超22.0kW以下	• S-006591	93.8											
						22.0kW超30.0kW以下	• S-006592	94											
						30.0kW超37.0kW以下	• S-006593	94.3											
						37.0kW超	• S-006594	96.2											
					50Hz、200V、極数4	容量	0.75kW以下	• S-006595	84.8	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械—第2— 1部：単一 速度三相か ご形誘導電 機	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準 拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械—第2— 1部：単一 速度三相か ご形誘導電 機	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準 拠。ただし、負荷を100%とする。	
						0.75kW超1.1kW以下	- S-006596	-											
						1.1kW超1.5kW以下	• S-006597	86.9											
						1.5kW超2.2kW以下	• S-006598	88.6											
						2.2kW超3.0kW以下	- S-006599	-											
						3.0kW超3.7kW以下	• S-006600	89.4											
						3.7kW超4.0kW以下	- S-006601	-											
						4.0kW超5.5kW以下	• S-006602	91.9											
						5.5kW超7.5kW以下	• S-006603	91.7											
						7.5kW超11.0kW以下	• S-006604	92.5											
						11.0kW超15.0kW以下	• S-006605	93.1											
						15.0kW超18.5kW以下	• S-006606	94.1											
						18.5kW超22.0kW以下	• S-006607	93.9											
						22.0kW超30.0kW以下	• S-006608	94.5											
						30.0kW超37.0kW以下	• S-006609	95.1											
						37.0kW超	• S-006610	96											
					50Hz、200V、極数6	容量	0.75kW以下	• S-006611	83.8	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械—第2— 1部：単一 速度三相か ご形誘導電 機	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準 拠	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械—第2— 1部：単一 速度三相か ご形誘導電 機	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準 拠。ただし、負荷を100%とする。	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件			
											単位	名称		標準する規格	規格の名称	標準する規格	規格の名称	説明	
						0.75kW超1.1kW以下	-	S-006612	-										
						1.1kW超1.5kW以下	•	S-006613	87.2										
						1.5kW超2.2kW以下	•	S-006614	89.3										
						2.2kW超3.0kW以下	-	S-006615	-										
						3.0kW超3.7kW以下	•	S-006616	89.3										
						3.7kW超4.0kW以下	-	S-006617	-										
						4.0kW超5.5kW以下	•	S-006618	91.1										
						5.5kW超7.5kW以下	•	S-006619	91.1										
						7.5kW超11.0kW以下	•	S-006620	91.7										
						11.0kW超15.0kW以下	•	S-006621	92.5										
						15.0kW超18.5kW以下	•	S-006622	92.7										
						18.5kW超22.0kW以下	•	S-006623	93.2										
						22.0kW超30.0kW以下	•	S-006624	94.2										
						30.0kW超37.0kW以下	•	S-006625	93.9										
						37.0kW超	○	S-006626	94.7										
					60Hz、220V、極数2	容量	0.75kW以下	•	S-006627	86.2	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JIS C 4034- 2-1:2011また はJIS C 4213:2014	回転電気機 械—第2— 1部：単— 速度三相か ご形誘導電	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機 械—第2— 1部：単— 速度三相か ご形誘導電	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。
						0.75kW超1.1kW以下	○	S-006628	86.3										
						1.1kW超1.5kW以下	•	S-006629	90.2										
						1.5kW超2.2kW以下	•	S-006630	90.8										
						2.2kW超3.0kW以下	-	S-006631	-										
						3.0kW超3.7kW以下	•	S-006632	90.9										
						3.7kW超4.0kW以下	-	S-006633	-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件							
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明				
								2.2kW超3.7kW以下	○	S-006678	94.8													
								3.7kW超5.5kW以下	●	S-006679	94.3													
								5.5kW超7.5kW以下	●	S-006680	94.8													
								7.5kW超11kW以下	●	S-006681	94.3													
								11kW超15kW以下	●	S-006682	95													
								15kW超18.5kW以下	●	S-006683	94.9													
								18.5kW超22kW以下	●	S-006684	96.2													
								22kW超30kW以下	●	S-006685	96.3													
								30kW超37kW以下	●	S-006686	95.6													
								37kW超45kW以下	●	S-006687	95.9													
								45kW超55kW以下	●	S-006688	96.1													
								55kW超75kW以下	●	S-006689	97.4													
								75kW超90kW以下	○	S-006690	96.2													
								90kW超110kW以下	○	S-006691	96.6													
								110kW超132kW以下	○	S-006692	97													
								132kW超160kW以下	○	S-006693	97.2													
								160kW超	-	S-006694	-													
L-001361	産業・業 務(業種 共通)	動力他	変圧器	油入変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。クラフト紙・プレスボード等の絶縁物と絶縁油にて構成されている。	油入変圧器、三相、50Hz	定格容量	20kVA以下	●	S-006695	82	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠				
								20kVA超30kVA以下	●	S-006696	123													
								30kVA超50kVA以下	●	S-006697	187													
								50kVA超75kVA以下	●	S-006698	211													
								75kVA超100kVA以下	●	S-006699	261													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標							
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件		
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称
						100kVA超150kVA以下	○	S-006700	322										
						150kVA超200kVA以下	●	S-006701	412										
						200kVA超300kVA以下	●	S-006702	553										
						300kVA超500kVA以下	●	S-006703	833										
						500kVA超750kVA以下	●	S-006704	1453										
						750kVA超1000kVA以下	●	S-006705	1883										
						1000kVA超1500kVA以下	●	S-006706	2688										
						1500kVA超2000kVA以下	●	S-006707	3458										
					油入変圧器、三相、60Hz	定格容量	20kVA以下	●	S-006708	72	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠
							20kVA超30kVA以下	●	S-006709	115									
							30kVA超50kVA以下	●	S-006710	182									
							50kVA超75kVA以下	●	S-006711	195									
							75kVA超100kVA以下	●	S-006712	246									
							100kVA超150kVA以下	●	S-006713	303									
							150kVA超200kVA以下	●	S-006714	392									
							200kVA超300kVA以下	●	S-006715	507									
							300kVA超500kVA以下	●	S-006716	756									
							500kVA超750kVA以下	●	S-006717	1385									
							750kVA超1000kVA以下	●	S-006718	1783									
							1000kVA超1500kVA以下	●	S-006719	2513									
							1500kVA超2000kVA以下	●	S-006720	3325									
					油入変圧器、単相、50Hz	定格容量	10kVA以下	●	S-006721	42	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:20 13	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
												単位	名称		標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明		
						50kVA超75kVA以下	○	S-006744	244													
						75kVA超100kVA以下	●	S-006745	309													
						100kVA超150kVA以下	●	S-006746	411													
						150kVA超200kVA以下	○	S-006747	460													
						200kVA超300kVA以下	●	S-006748	581													
						300kVA超500kVA以下	●	S-006749	899													
						500kVA超750kVA以下	●	S-006750	1675													
						750kVA超1000kVA以下	●	S-006751	2094													
						1000kVA超1500kVA以下	●	S-006752	3300													
						1500kVA超2000kVA以下	●	S-006753	4088													
					モールド変圧器、三相、 60Hz	定格容量	20kVA以下	○	S-006754	157	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠			
						20kVA超30kVA以下	○	S-006755	191													
						30kVA超50kVA以下	○	S-006756	301													
						50kVA超75kVA以下	●	S-006757	244													
						75kVA超100kVA以下	●	S-006758	293													
						100kVA超150kVA以下	●	S-006759	401													
						150kVA超200kVA以下	●	S-006760	460													
						200kVA超300kVA以下	●	S-006761	592													
						300kVA超500kVA以下	●	S-006762	852													
						500kVA超750kVA以下	●	S-006763	1715													
						750kVA超1000kVA以下	●	S-006764	2028													
						1000kVA超1500kVA以下	●	S-006765	3200													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
												単 位	名 称		標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説 明		
						1500kVA超2000kVA以下	● S-006766	4125														
				モールド変圧器、単相、 50Hz	定格容量	10kVA以下	● S-006767	78	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠					
						10kVA超20kVA以下	○ S-006768	115														
						20kVA超30kVA以下	○ S-006769	160														
						30kVA超50kVA以下	● S-006770	155														
						50kVA超75kVA以下	● S-006771	181														
						75kVA超100kVA以下	● S-006772	223														
						100kVA超150kVA以下	● S-006773	289														
						150kVA超200kVA以下	● S-006774	369														
						200kVA超300kVA以下	● S-006775	496														
						300kVA超500kVA以下	● S-006776	774														
				モールド変圧器、単相、 60Hz	定格容量	10kVA以下	● S-006777	73	W	全損失	標準規格 による評 価	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:20 13	配電用 6 kV モールド変 圧器	JISC4306:2013に準拠					
						10kVA超20kVA以下	○ S-006778	110														
						20kVA超30kVA以下	○ S-006779	150														
						30kVA超50kVA以下	● S-006780	149														
						50kVA超75kVA以下	● S-006781	183														
						75kVA超100kVA以下	● S-006782	228														
						100kVA超150kVA以下	● S-006783	285														
						150kVA超200kVA以下	● S-006784	368														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)				クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明		
							75kW、178kg/h	●	S-006789	2.18 *												
						高圧蒸気仕様	容量、消費蒸気量	75kW、247kg/h	●	S-006790	0.6 *	%	消費蒸気原 単位	標準条件 による評 価	-	-	E=B/(A-C)、E：消費蒸気原単位 [-]、A：消費 蒸気量 [kW]、B：吐出空気量 [m3/min]、 C：回収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量につ いては温水入口温度と温水出口温度を次のとおり 設定することを条件とする。温水入口温度： 15℃、温水出口温度：50℃以上、また、消費蒸 気量はメーカー指示値（性能表等）を参照す る。		
L-001372	産業・業 務（業種 共通）	動力他	モータ利 用機器 （圧縮 機）	熱回収式ねじ容 積形圧縮機	従来は、廃棄されていた圧縮熱を温水として供給可能なねじ容積 形圧縮機。コンプレッサの廃熱を温水として回収するために軟水 装置から新水を通過させ、70℃の温水をボイラ給水へ戻すことで ボイラの燃料消費量が低減可能。また、直接温水利用することも 可能。	給油式	容量、熱回収量	37kW、25kW	●	S-006791	0.41 *	%	エネルギー 原単位	標準条件 による評 価	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	E=B/(A-C)、E：エネルギー原単位 [-]、A：軸 動力 [kW]、B：吐出空気量 [m3/min]、C： 回収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量につ いては温水入口温度と温水出口温度を次のとおり 設定することを条件とする。温水入口温度： 15℃、温水出口温度：50℃以上		
							75kW、60kW	●	S-006792	0.88 *												
						オイルフリー式	容量、熱回収量	37kW、25kW	●	S-006793	0.41 *	%	エネルギー 原単位	標準条件 による評 価	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	E=B/(A-C)、E：エネルギー原単位 [-]、A：軸 動力 [kW]、B：吐出空気量 [m3/min]、C： 回収熱量 [kW]	JISB8341- 2008	容積形圧縮 機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量につ いては温水入口温度と温水出口温度を次のとおり 設定することを条件とする。温水入口温度： 15℃、温水出口温度：50℃以上		
							75kW、60kW	○	S-006794	0.87 *												
L-001385	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	Low-E複層ガラ ス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティング することで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うこ とによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよ うになる。	新築用	-	-	●	S-006795	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:20 19及び JISR3209:20 18	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:20 19及び JISR3209:20 18	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。た だし、L2-Tech水準は、LE3+A6+FL3のガラス構成 における数値を示す。		
L-001386	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	三層Low-E複層 ガラス	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属 膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラ ス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行 うことができるようになる。	新築用	-	-	●	S-006796	0.8	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:20 19及び JISR3209:20 18	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:20 19及び JISR3209:20 18	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。た だし、L2-Tech水準は、LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3の ガラス構成における数値を示す。		
L-001387	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	真空Low-E複層 ガラス	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすること で、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことに よって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるよ うになる。	新築用	-	-	●	S-006797	0.74	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:20 19及び JISR3209:20 18。た だし、真空 ガラスにつ いては、複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等（平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号）	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等（平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号）	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。た だし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能 の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者 等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業 省告示第235号）に準拠	JISR3107:20 19及び JISR3209:20 18。た だし、真空 ガラスにつ いては、複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等（平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号）	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等（平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号）	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。た だし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能 の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者 等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業 省告示第235号）に準拠。ただし、L2-Tech水準 は、LE3+Ar9+FL3+V0.2+LE3のガラス構成にお ける数値を示す。		
L-001388	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	アタッチメント 付きLow-E複層 ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティング することで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメン トにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、 大がかりな工事を必要としない。断熱を行うことによって、より 少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	●	S-006798	2.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:20 19及び JISR3209:20 18	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:20 19及び JISR3209:20 18	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法及び複層 ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。た だし、L2-Tech水準は、LE3+Ar4+FL3（アタ ッチメント付き）のガラス構成における数値を示す。		
L-001389	産業・業 務（業種 共通）	断熱	窓	真空ガラス	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減した ガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調 を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	●	S-006799	1	W/m2K	熱貫流率	標準規格 による評 価	JISR3107:20 19及び JISR3209:20 18。た だし、真空 ガラスにつ いては、複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等（平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号）	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等（平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号）	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。た だし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能 の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者 等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業 省告示第235号）に準拠	JISR3107:20 19及び JISR3209:20 18。た だし、真空 ガラスにつ いては、複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等（平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号）	板ガラス類 の熱抵抗及 び建築にお ける熱貫流 率の算定方 法、複層ガ ラス及び複 層ガラスの 性能の向上 に関する熱 損失防止建 築材料製造 事業者等の 判断の基準 等（平成26 年11月28日 経済産業省 告示第235 号）	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。た だし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能 の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者 等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業 省告示第235号）に準拠。ただし、L2-Tech水準 は、LE3+V0.2+FL3のガラス構成における数値を 示す。		

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標										
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	規格の名称	規格の名称	計算方法	試験条件	説明	試験条件			
																			単位	名称	標準規格 による評価	規格の名称
L-001390	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	現場施工型後付けLow-E複層ガラス	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることでLow-E複層ガラスとして放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	-	●	S-006800	1.6	W/m ² K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、FL6+A12+LE5のガラス構成における数値を示す。	
L-001391	産業・業務 (業種 共通)	断熱	窓	薄型Low-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	-	●	S-006801	2.5	W/m ² K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+K2.5+FL3のガラス構成における数値を示す。	
L-001392	産業・業務 (業種 共通)	断熱	断熱材	断熱材(押出法ポリスチレンフォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加工することで製造する。	-	-	-	-	●	S-006802	0.022	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	
L-001393	産業・業務 (業種 共通)	断熱	断熱材	断熱材(グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し綿状にすることで製造する。	天井用	-	-	-	-	○	S-006803	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠
						壁用	-	-	-	-	-	-	○	S-006804	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014
L-001394	産業・業務 (業種 共通)	断熱	断熱材	真空断熱材	家庭用冷蔵庫の断熱材として使用されている真空断熱材を使用した断熱材。住宅だけではなく非住宅のリフォーム(内貼断熱工法)にも向く。	-	-	-	-	○	S-006805	0.002*	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	
L-001395	産業・業務 (業種 共通)	断熱	遮熱塗料	低放射遮熱塗料	工業炉の炉壁からの放射熱は、電磁波の熱移動による放射熱(輻射熱)と空気の接触による対流熱を足した値となる。本塗料を炉壁面に5~15μm程度被覆することで、炉壁からの放射熱を大幅な削減が可能となり、消費エネルギーによるCO2排出量削減効果をもたらす。	-	-	-	-	○	S-006806	0.15	0	-	放射率	標準規格による評価	JIS A 1423:2017	赤外線放射温度計による放射率の簡易測定方法	JIS A 1423:2017	赤外線放射温度計による放射率の簡易測定方法	JISA1423:2017に準拠	
L-001396	産業・業務 (業種 共通)	乾燥	乾燥装置	蒸気リサイクル大型濃縮乾燥装置	濃縮乾燥プロセスにおいて、被処理物から蒸発した蒸気は従来大気に捨てられていたが、この蒸気を圧縮機で昇温昇圧し、被処理物の加熱源として再利用することにより、投入する化石燃料起因の蒸気量を大幅低減し、CO2排出量削減に繋げる装置。	純水：沸点100℃(大気圧下)	蒸発能力	150L/h	-	○	S-006807	1.79*	-	-	成績係数(COP)	実績値による評価	-	-	sysCOP=Cst×M/(Cst×S/η+CexE) Cst:水蒸気の100℃における全熱エンタルピーと25℃における顕熱エンタルピーの差(=,2571kJ/kg) M:被処理物から蒸発させた蒸気量[kg] S:ボイラー蒸気量[kg] η:熱損失(蒸気熱量/燃料熱量) Cex:換算係数 3.6MJ/kWh E:電力消費量[kWh]	-	-	・本装置は水蒸気と電力を入力として被処理物を蒸留して濃縮・乾燥する装置であり、下記の試験で得たエネルギーのインプット(熱量換算)でアウトプット(蒸発蒸気の熱量)を除外して得た値(システムCOP)。・最終処分場性能指針に基づき、模擬浸出水の濃縮・乾燥を1m ³ /日以上、60日以上行った際のデータに基づいて評価。・電源の周波数は50Hzとする。・ボイラーはA重油炊きとする。
						300L/h	-	○	S-006808	1.5*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
						750L/h	-	○	S-006809	1.79*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-001397	産業・業務 (業種 共通)	動力他	洗濯機	業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	洗濯機と乾燥機からなる。乾燥機部に排熱回収ヒートポンプシステムを搭載し、エバポレータにて衣類乾燥後の湿った空気から集めた熱エネルギーを圧縮機で高温にする。高温の空気をガスクーラで110℃前後の(または「最大115℃の」)温風熱として放出することで衣類を乾かす。従来のガス式と比較して、効率的に熱回収可能な排熱回収ヒートポンプシステムを採用することで、効率よく乾燥できる。導入先として、福祉施設、病院、等、幅広い施設が挙げられる。	-	乾燥能力(JIMS規格)	9kg以上	-	●	S-006810	9.4	kWh/回	消費電力量	標準条件による評価	JIS C 9606及びJIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、洗濯乾燥1回あたりの電力消費量は、試験(4回以上)によって得られた値の平均値とする。	JIS C 9606及びJIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、処理物、処理条件は以下の通りとする。<処理物>被洗濯物:JIMS規格による標準洗濯乾燥容量の縮100%バスタオル<処理条件>定格電圧:3相交流200V 被洗濯物あたり水量:5.0L/kg以上 被洗濯物あたり洗濯時間:洗濯、すすぎ、脱水工程で各0.5min/kg以上 被洗濯物あたり乾燥時間:4.0min/kg以下 回転速度:設定できる最速の設定(乾燥工程はメーカー推奨の回転速度) 乾燥度(洗濯乾燥後):97%以上 試験回数:4回以上	
						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
L-001401	産業・業務 (業種 共通)	エネルギーマネジメント	エネルギーマネジメントシステム	BEMS(制御サービス・空調・熱源・中央方式)	オフィスビルにおけるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、セントラル空調を対象とした制御サービス。	空気熱源仕様	-	-	-	●	S-006811	別紙*	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-	-
						水熱源仕様	-	-	-	●	S-006812	別紙*	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-	-
L-001405	産業・業務 (業種 共通)	空調	その他	二流体加湿器	水と圧縮空気の2種類の流体をノズルから噴射し、平均粒子径10μm前後に微細化した水粒子を空気中に噴射して加湿する機器。コンプレッサにより電気で作った圧縮空気で噴霧して蒸発気化させるため、沸騰で気化させる蒸気加湿に比べて加湿エネルギーが低減できる。	-	-	-	-	○	S-006813	80*	%	給水有効利用率	標準条件による評価	-	-	給水有効利用率=(出口絶対湿度[kg/kgDA]-入口絶対湿度[kg/kgDA])×風量[m ³ /h]÷比容積[m ³ /kgDA]÷噴霧流量[kg/h]	-	-	給水有効利用率の算出にあたっては、噴霧量、供給エア圧、飽和効率、加湿量、風速、入口湿球温度、エリミネータの設置を以下のとおり設定することを条件とする。噴霧量:定格噴霧量、供給エア圧:0.7MPa以下、飽和効率:85%以上、加湿量:5.6g/kgDA以上、風速:2m/sec以上、入口湿球温度:15.5℃以下、エリミネータの設置:有	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標											
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			認定 対象	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件					
												単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明		
L-001408	産業・業 務(業種 共通)	動力他	その他	サーバ用電子計 算機	ネットワーク上でサービス等を提供する24時間稼働することを前提として設計された電子計算機であって、専らネットワークを介してアクセスされる。サーバ型電子気鋭産機に搭載されているCPUは専用CISC、RISC、IA64、IA32の4つに分類され、IA64、IA32といった汎用CPUはエネルギー消費効率が高い。	H※区分は省エネルギー法による	-	S-006814	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件				
						I※区分は省エネルギー法による	-	S-006815	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件				
						J※区分は省エネルギー法による	-	S-006816	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件				
						K※区分は省エネルギー法による	-	S-006817	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件				
						L※区分は省エネルギー法による	-	S-006818	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件				
L-001414	産業(業 種固有)	農林水産	その他	農業等暖房用温 水発生機	燃焼室、伝熱面から構成され、燃焼によって温められた温水を循環ポンプで栽培用温室内のパイプに送り、空気と熱交換させ、暖房として利用する。	LPG焼き、50Hz	熱出力	233kW未満	-	S-006819	-	%熱効率	標準規格による評価	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠			
						233kW以上465kW未満	-	S-006820	-													
						465kW以上697kW未満	-	S-006821	-													
						697kW以上930kW未満	-	S-006822	-													
						930kW以上1163kW未満	-	S-006823	-													
						1163kW以上1395kW未満	○	S-006824	95*													
						1395kW以上	-	S-006825	-													
						都市ガス13A焼き、50Hz	熱出力	233kW未満	-	S-006826	-	%熱効率	標準規格による評価	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠			
						233kW以上465kW未満	-	S-006827	-													
						465kW以上697kW未満	-	S-006828	-													
						697kW以上930kW未満	-	S-006829	-													
						930kW以上1163kW未満	-	S-006830	-													
						1163kW以上1395kW未満	-	S-006831	-													
1395kW以上	-	S-006832	-																			
LPG焼き、60Hz	熱出力	233kW未満	-	S-006833	-	%熱効率	標準規格による評価	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠									
233kW以上465kW未満	-	S-006834	-																			

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標											
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準備する規格		規格の名称		計算法		試験条件		説 明
												単 位	名 称		準備する規格	規格の名称	計算法	準備する規格	規格の名称				
						75kW以上170kW未満	-	S-006856	-														
						170kW以上300kW未満	-	S-006857	-														
L-001422	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ 内燃機関 型)	ホイールローダ (内燃機関型)	建設現場で使用される重機の一つ。前方に設置されたバケットで土石をすくいあげ、トラック等に積み込む機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型のエンジンの導入や、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2 排出量の削減が可能となる。	定格出力	40kW以上110kW未満	-	S-006858	-	g/t	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH022: 2015または JCMASH022: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—ホイ ールロー ダまたは土 工機械—燃 料消費量試 験方法—ホ ールロー	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準 拠	JCMASH022: 2015または JCMASH022: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—ホイ ールロー ダまたは土 工機械—燃 料消費量試 験方法—ホ ールロー	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準 拠				
						110kW以上230kW未満	-	S-006859	-														
L-001424	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ ハイブリ ッド型)	油圧ショベル (ハイブリッド 型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ハイブリッド型は、動力としてエンジンと電気モータを組み合わせた油圧ショベル。巡回減速時のエネルギーを回収して電気エネルギーとして蓄電し、加速時の補助エネルギーとして利用することで、エンジンで消費される軽油消費量を低減し、CO2 排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	S-006860	-	kg/標準作 業	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH020: 2014または JCMASH020: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準 拠	JCMASH020: 2014または JCMASH020: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準 拠				
						0.70 m3以上0.90 m3未満	-	S-006861	-														
L-001427	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ 電気型)	油圧ショベル (電動型)	建設現場で使用される重機の一つ。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、動力として電気モータを使用する油圧ショベル。従来型の油圧ショベルで燃料として使用されていた軽油を電力で代替することにより、CO2 排出量の削減が可能となる。	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	-	S-006862	-	kWh/標準 作業	電力消費量	標準規格 による評 価	JCMASH020: 2014または JCMASH020: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準 拠	JCMASH020: 2014または JCMASH020: 2010	土工機械— エネルギー 消費量試験 方法—油圧 ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準 拠				
						0.70 m3以上0.90 m3未満	-	S-006863	-														
L-001428	産業(業 種固有)	建設	オフロー ド特殊自 動車(建 設機械・ 電気型)	ブルドーザ(電 動型)	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、ディーゼルエンジンによって発電機を駆動させ、電動モータにより稼働するブルドーザ。電力駆動を採り入れることで低炭素化を実現している。	定格出力	19kW以上75kW未満	-	S-006864	-	g/kWh	燃費	標準規格 による評 価	JCMASH021: 2010	土工機械— 燃料消費量 試験方法	JCMASH021:2010に準拠	JCMASH021: 2010	土工機械— 燃料消費量 試験方法	JCMASH021:2010に準拠				
						75kW以上170kW未満	-	S-006865	-														
						170kW以上300kW未満	-	S-006866	-														
L-001429	産業(業 種固有)	食料品製 造業	洗浄乾燥 機	遠心脱水型コン テナ(容器)洗 浄乾燥機	洗浄水加熱用循環加熱ヒートポンプ、リンス水加熱用空気熱源ヒートポンプ、遠心脱水機乾燥からなる。循環加熱ヒートポンプによって保温された洗浄槽で洗浄し、空気熱源ヒートポンプで加熱された湯でリンスをし、遠心脱水機で乾燥をする設備。熱源機でつくった熱風で乾燥する熱風方式と遠心脱水機で乾燥する遠心脱水方式がある。従来型と比較してヒートポンプの採用により効率的に洗浄ができ、遠心脱水機の採用により少ない水、消費エネルギーで乾燥ができる。食品・飲料工場や自動車工場等、幅広い用途へ導入が可能である。	処理速度	75～150サイクル/h	○	S-006867	0.049	kWh/台	コンテナ1 台あたりの 電力消費量	標準条件 による評 価	-	-	P=(A+B+C+D+E+F+G+H)/I、P：コンテナ1台 あたりの電力消費量 [kWh]、A：主搬送コン ベアの電力消費量 [kWh]、B：搬入出コンベ アの電力消費量 [kWh]、C：洗浄ポンプの電 力消費量 [kWh]、D：リンスポンプの電力消 費量 [kWh]、E：洗浄槽旋回電力消費量 [kWh]、F：遠心脱水機駆動 [kWh]、G：排 気ファン [kWh]、H：ヒートポンプの電力消 費量 [kWh]、I：コンテナ総数 [台]	-	-	<処理物> コンテナ：「食品クレート標準 共有 化ガイドライン」で規定されている食品クレ ート標準Ⅰ型、またはⅡ型浅・深用 <処理条件> 高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)(洗 浄側) 温水出口温度：65℃以上70℃以下、乾球 温度：16℃、湿球温度：12℃、温水出入口温度 差：5℃ 高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過 式)(リンス側)：JRA4060:2014に準拠 含水率 (脱水後)：1%未満(ワーク質量に対する割合) 汚れ度(洗浄前/洗浄後) APT値：3000RLU 以上 / 1000RLU未満				
						151～225サイクル/h	○	S-006868	0.036														
L-001430	産業(業 種固有)	食料品製 造業	業務用冷 凍機器	低温用自然冷媒 冷凍機(アンモ ニア/CO2二次 冷媒システム)	一次冷媒(アンモニア)を用いた冷凍装置で二次冷媒(CO2)を低温まで冷却し、食品等を凍結装置するフリーザー装置などに供給する。	装置内温度-42℃超-25℃未満	冷凍能力	100kW以下	●	S-006869	1.62 *	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、 凝縮温度をそれぞれ次のとおり設定すること を条件とする。CO2温度：-42℃超-27℃以下、冷却 水入口温度：32℃			
						100kW超150kW以下	●	S-006870	1.62 *														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法	準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明
												単位	名称								
						3室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	● S-006885	2.81	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位 重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面 含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温 熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たりに処理した生地 重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な 操業状態において、処理布、処理条件を次のと り設定することを条件とする。<処理布>、 素材:ポリエステル100%織物、布幅: 1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理 温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/ 2%以下		
						2000mmW以上2300mmW 未満	● S-006886	2.86													
						2300mmW以上2500mmW 以下	● S-006887	2.94													
						4室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	- S-006888	-	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位 重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面 含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温 熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たりに処理した生地 重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な 操業状態において、処理布、処理条件を次のと り設定することを条件とする。<処理布>、 素材:ポリエステル100%織物、布幅: 1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理 温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/ 2%以下		
						2000mmW以上2300mmW 未満	- S-006889	-													
						2300mmW以上2500mmW 以下	- S-006890	-													
L-001433	産業(業 種固有)	繊維工業	熱処理機	熱回収式工業用 繊維物熱処理機	繊維物の乾燥後に、繊維物の形態を整え、寸法を安定化するため に熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより織 編物に熱風を吹付ける。繊維物を加熱することによって発生した 熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保た れる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱 媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	3室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	● S-006891	2.1	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位 重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面 含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温 熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たりに処理した生地 重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な 操業状態において、処理布、処理条件を次のと り設定することを条件とする。<処理布>素 材:ポリエステル100%織物、布幅: 1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理 温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/ 2%以下		
						2000mmW以上2300mmW 未満	● S-006892	2.12													
						2300mmW以上2500mmW 以下	● S-006893	2.14													
						4室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	● S-006894	2.05	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位 重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面 含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温 熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たりに処理した生地 重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な 操業状態において、処理布、処理条件を次のと り設定することを条件とする。<処理布>素 材:ポリエステル100%織物、布幅: 1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理 温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/ 2%以下		
						2000mmW以上2300mmW 未満	● S-006895	2.05													
						2300mmW以上2500mmW 以下	● S-006896	2.08													
						5室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW 未満	● S-006897	2.01	MJ/kg	単位重量当 たりの熱量	シミュ レーショ ンによる 評価	-	-	$Q = (qA + qB + qC + qD + qE) \div m$ 、Q:処理布の単位 重量当たりの熱量 [MJ/kg]、qA:保温版(床面 含む)からの放熱量 [MJ/h]、qB:処理布の昇温 熱量 [MJ/h]、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量 [MJ/h]、qD:給気・排気による損失熱量 [MJ/h]、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱 量 [MJ/h]、m:単位時間当たりに処理した生地 重量 [kg/h] ※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な 操業状態において、処理布、処理条件を次のと り設定することを条件とする。<処理布>素 材:ポリエステル100%織物、布幅: 1540mmW、目付:200g/m2、<処理条件>処理 温度:140℃、水分率(入口/出口):70~75%/ 2%以下		
						2000mmW以上2300mmW 未満	● S-006898	2.01													
						2300mmW以上2500mmW 以下	● S-006899	2.03													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標														
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)			クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		試験条件								
											単位	名称		標準する規格	規格の名称	計算式	標準する規格	規格の名称	説明					
							ミニバン	-	S-006916	-														
							ワゴン	-	S-006917	-														
						ガソリン車、普通自動車	SUV	-	S-006918	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠					
							スポーツカー	-	S-006919	-														
							セダン	-	S-006920	-														
							ミニバン	-	S-006921	-														
							ワゴン	-	S-006922	-														
						ディーゼル車、小型自動車	コンパクトカー	-	S-006923	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠					
						ディーゼル車、普通自動車	SUV	-	S-006924	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠					
							セダン	-	S-006925	-														
							ミニバン	-	S-006926	-														
							ワゴン	-	S-006927	-														
L-001467	運輸	自動車	自動車 (内燃機 関型)	ディーゼル・天然ガス車(商用車・重量車)	(ディーゼル車)ディーゼルエンジンを搭載した自動車。(天然ガス車)現在、国内で使用されている天然ガス自動車の多くは、ディーゼル車やガソリン車をベースとし、改造することによって天然ガス車として走行している。一方、メーカーにおいては圧縮天然ガス(CNG)エンジンの開発も進められている。	貨物自動車、トラクタ	区分1※区分は省エネルギー法による	-	S-006928	-	km/l	燃費	標準規格による評価	-	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モード)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モード)	国土交通省審査で定める試験条件					
							区分2※区分は省エネルギー法による	-	S-006929	-														
						貨物自動車、トラクタ以外	区分1※区分は省エネルギー法による	-	S-006930	-	km/l	燃費	標準規格による評価	-	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間非)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間非)	国土交通省審査で定める試験条件					
							区分2※区分は省エネルギー法による	-	S-006931	-														
							区分3※区分は省エネルギー法による	-	S-006932	-														
							区分4※区分は省エネルギー法による	-	S-006933	-														

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			測定単位		評価方法の タイプ	規格		計算方法	試験条件			
											単位	名称		標準する規格	規格の名称		計算式	標準する規格	規格の名称	説明
							区分4※区分は省エネルギー法による	-	S-006951	-										
							区分5※区分は省エネルギー法による	-	S-006952	-										
L-001469	運輸	自動車	自動車 (ハイブリッド型)	ハイブリッド自動車(乗用車)	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じ電気モータを介して動力とする。効率の低いエンジン作動区域にハイブリッド技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	小型自動車	-	コンパクトカー	-	S-006953	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠
								セダン	-	S-006954	-									
								ミニバン	-	S-006955	-									
								ワゴン	-	S-006956	-									
						普通自動車	-	SUV	-	S-006957	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠
								スポーツカー	-	S-006958	-									
								セダン	-	S-006959	-									
								ミニバン	-	S-006960	-									
								ワゴン	-	S-006961	-									
L-001470	運輸	自動車	自動車 (ハイブリッド型)	ハイブリッド自動車(商用車・重畳車)	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じ電気モータを介して動力とする。効率の低いエンジン作動区域にハイブリッド技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	トラクタ以外	-	区分1※区分は省エネルギー法による	-	S-006962	-	km/l	燃費	標準規格による評価	-	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を車種等によって異なる割合で合算した燃費値)	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審査に準ずる(都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を車種等によって異なる割合で合算した燃費値)	国土交通省審査で定める試験条件
								区分2※区分は省エネルギー法による	-	S-006963	-									
								区分3※区分は省エネルギー法による	-	S-006964	-									
								区分4※区分は省エネルギー法による	-	S-006965	-									
								区分5※区分は省エネルギー法による	-	S-006966	-									
L-001472	運輸	自動車	自動車 (電気型)	電気自動車(乗用車)	従来の内燃機関のかわりに、バッテリーに充電した電力を動力源としてモータで走行する自動車。	軽自動車	-	軽自動車	-	S-006967	-	Wh/km	交流充電電力消費量	標準規格による評価	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車-充電走行距離及び交流充電電力消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車-充電走行距離及び交流充電電力消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格 規格の名称	規格の名称	計算方法	準拠する規格	規格の名称	試験条件	
												単位	名称							単位	名称
												Wh/km	交流充電電 力消費量	標準規格 による評 価	JISD1301:20 01に基づく JC08モード	電気自動車- 一充電走行 距離及び交 流充電電力 消費率試験 方法に基づ くJC08 モード	JISD1301:20011に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:20011に基づくJC08モード	JISD1301:20011に基づくJC08モードに準拠		
L-001480	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ)	家庭用エコ キュート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65°C以上の高温沸き上げが可能な高効率な給湯システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニットで構成されている。	一般地仕様、少人数世帯、保温あり	貯湯容量	185L	●	S-006968	2.8	-	年間給湯保 温効率	標準規格 による評 価	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-006970	4	-	年間給湯保 温効率	標準規格 による評 価	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-006971	3	-	年間給湯保 温効率	標準規格 による評 価	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	
						一般地仕様、標準世帯、保温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-006972	3.3	-	年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-006973	3.3	-	寒冷地年間 給湯保温効 率	標準規格 による評 価	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	
						寒冷地仕様、標準世帯、保温なし、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	●	S-006974	2.9	-	寒冷地年間 給湯効率	標準規格 による評 価	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	
L-001481	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ)	多機能ヒートポ ンプ給湯機	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65°C以上の高温沸き上げが可能な高効率な給湯システム。ヒートポンプユニットと給湯(貯湯)ユニット、床暖房端末で構成されている。1台のヒートポンプによって給湯、および床暖房が可能であるため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-006975	3.9	-	年間給湯保 温効率(床 暖房部分除 く)	標準規格 による評 価	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	○	S-006976	3	-	寒冷地年間 給湯保温効 率(床暖房 部分除く)	標準規格 による評 価	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	
L-001482	家庭	給湯	給湯器 (ガス 式)	ガス温水機器 (エコジョー ズ)	ガスを燃料としたバーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。	給湯専用機	-	-	●	S-006977	95	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS2109:20 10R	家庭用ガス 温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:20 10	家庭用ガス 燃焼機器の 試験方法	JISS2093:2010に準拠	
						暖房給湯兼用機	-	-	●	S-006978	93	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS2112:20 11及び JISS2109:20 10R	家庭用ガス 温水熱源機 及び家庭用 ガス温水機 器	JISS2112:2011及びJISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:20 10	家庭用ガス 燃焼機器の 試験方法	JISS2093:2010に準拠	
						暖房専用機	-	-	●	S-006979	87	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS2112:20 11	家庭用ガス 温水熱源機	JISS2112:2011に準拠	JISS2093:20 10	家庭用ガス 燃焼機器の 試験方法	JISS2093:2010に準拠	
						風呂給湯兼用機	-	-	●	S-006980	95.1	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS2109:20 10R	家庭用ガス 温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:20 10	家庭用ガス 燃焼機器の 試験方法	JISS2093:2010に準拠	
L-001483	家庭	給湯	コージェ ネレー ション	家庭用燃料電池 (エネファ ーム・PEFC)	燃料電池は燃料から直接電気エネルギーを取り出すことができ、化石燃料を燃焼させる従来の発電システムに比べて、高い発電効率、優れた環境特性、排熱利用による高い総合効率、産出による低コスト化の可能性等の特長を持つ。発電の原理は、電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水素を供給して電気と熱を発生させるというものである。PEFC(固体高分子形燃料電池)は、電解質に固体高分子を用い、動作温度は80~100°C、白金が触媒として使われており、都市ガス、LPG(液化石油ガス)を燃料としている。排熱効率が高く、SS(Daily Start and Stop)が容易である。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う(現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下)。	-	定格内容積	-	○	S-006981	95	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8823:20 08	小形固体高 分子形燃料 電池システ ムの安全性 及び性能試 験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:20 08	小形固体高 分子形燃料 電池システ ムの安全性 及び性能試 験方法	JISC8823:2008に準拠	
						-	-	-	○	S-006982	39	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8823:20 08	小形固体高 分子形燃料 電池システ ムの安全性 及び性能試 験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:20 08	小形固体高 分子形燃料 電池システ ムの安全性 及び性能試 験方法	JISC8823:2008に準拠	
L-001484	家庭	給湯	コージェ ネレー ション	家庭用燃料電池 (エネファ ーム・SOFC)	SOFC(固体酸化燃料電池)は、電解質にセラミックを用い、動作温度は700~750°Cである。発電効率が高く24時間運転が多い。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う(現行販売製品の電気の定格出力は1kW以下)。	燃料: 都市ガス(13A、12A)	-	-	○	S-006983	87	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部:性能試 験方法及び	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部:性能試 験方法及び	JISC8841-3:2011に準拠	
						-	-	-	●	S-006984	52	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部:性能試 験方法及び	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部:性能試 験方法及び	JISC8841-3:2011に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	規格		計算方法	標準する規格	規格の名称	試験条件
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称				
						燃料：LPガス			○	S-006985	85	%	総合効率	標準規格 による評 価	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び	JISC8841-3:2011に準拠
									●	S-006986	51	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841- 3:2011	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3 部：性能試 験方法及び	JISC8841-3:2011に準拠
L-001485	家庭	厨房	冷凍冷蔵 機器	電気冷蔵庫	冷媒を用いて圧縮-凝縮-膨張-蒸発の冷凍サイクルを繰り返すことにより庫内を冷却する冷蔵庫。インバータ制御の高効率コンプレッサーと熱伝導が小さい真空断熱材を使用することにより消費電力量を削減することが可能である。(大型冷蔵庫の一部では既に採用されている)冷媒と断熱材にフロンを使用していない冷蔵庫のことを、ノンフロン冷蔵庫と呼び、現在出荷されている家庭用冷蔵庫のほとんどはイソブタン(冷媒)、シクロペンタン(断熱材発泡剤)を使用したノンフロン冷蔵庫である。冷蔵庫の冷却方法には直冷式と間冷式があり、一般に直冷式のほうが効率が高い。しかし、日本は湿度が高く、冷却器表面に霜がついて冷却能力が落ちるため、間冷式が主流である。	定格内容積	140L以下	-	S-006987	-	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	JISC9801- 3:2015	家庭用電気 冷蔵庫及び 電気冷凍庫 の特性及び 試験方法- 第3部：消 費電力量及 び内容積の 算出	JISC9801-3:2015に準拠	JISC9801- 3:2015	家庭用電気 冷蔵庫及び 電気冷凍庫 の特性及び 試験方法- 第3部：消 費電力量及 び内容積の 算出	JISC9801-3:2015に準拠	
							140L超200L以下	-	S-006988	-										
							200L超250L以下	-	S-006989	-										
							250L超300L以下	-	S-006990	-										
							300L超350L以下	-	S-006991	-										
							350L超400L以下	-	S-006992	-										
							400L超450L以下	-	S-006993	-										
							450L超500L以下	-	S-006994	-										
							500L超	-	S-006995	-										
L-001486	家庭	照明	照明器具	LED照明器具 (家庭用)	蛍光灯や白熱灯と比較して高効率で長寿命な白色LED(発光ダイオード)を光源に使用した照明器具が普及している。LED照明は、主に直付け(シーリング)カバー付型、ダウンライト型、電球型があり、他にスポットライト型、ブラケット型などもある。LED素子が器具に取り付けられ、ランプ交換は無いものが大半である。光の広がり(ビームの開き)を広くしたものの、発光色を切り替えるもの等が登場している。一般的には、「温白色、電球色」よりも「昼白色、昼白色、白色」の方がエネルギー効率(lm/W)は高くなる。	シーリングライト型	適用量数	~4.5畳	-	S-006996	-	lm/W	固有エネル ギー消費効 率	標準規格 による評 価	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具- 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具-第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠	JISC8105- 3:2011、 JISC8105- 5:2011及び JISZ8113:19 98	照明器具- 第3部：性 能要求事項 通、照明器 具-第5 部：配光測 定方法及び 照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、 JISZ8113:1998に準拠
								~6畳	○	S-006997	155.4									
								~8畳	●	S-006998	175.1									
								~10畳	●	S-006999	174.3									
								~12畳	●	S-007000	174.8									
								~14畳	●	S-007001	172.7									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス		認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)				クラス 能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法		標準する規格	規格の名称	試験条件	説明
												単位	名称		計算式	標準する規格				
								-	S-007002	-	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
								○	S-007003	93.3	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
								●	S-007004	128.5	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
								●	S-007005	111.1	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
								●	S-007006	112.5	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
								●	S-007007	112.1	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
								●	S-007008	125.1	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
								●	S-007009	138.7										
								●	S-007010	133.4										
								●	S-007011	127										
								●	S-007012	137.4										
								-	S-007013	-										
								●	S-007014	114.9	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	
								○	S-007015	84.4	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具—第3部：性能要求事項通、照明器具—第5部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス	認定 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類							条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)	測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法	準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明
													単位	名称								
L-001487	家庭	断熱	窓	Low-E複層ガラス(家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	●	S-007016	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+A6+FL3のガラス構成における数値を示す。				
L-001488	家庭	断熱	窓	三層Low-E複層ガラス(家庭用)	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	●	S-007017	0.8	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3のガラス構成における数値を示す。				
L-001489	家庭	断熱	窓	真空Low-E複層ガラス(家庭用)	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	●	S-007018	0.74	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法、複層ガラス及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法、複層ガラス及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠				
L-001490	家庭	断熱	窓	アタッチメント付きLow-E複層ガラス(家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事が必要としない。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	●	S-007019	2.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar4+FL3(アタッチメント付き)のガラス構成における数値を示す。				
L-001491	家庭	断熱	窓	真空ガラス(家庭用)	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	●	S-007020	1	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法、複層ガラス及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法、複層ガラス及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等(平成26年11月28日経済産業省告示第235号)に準拠				
L-001492	家庭	断熱	窓	現場施工型後付けLow-E複層ガラス(家庭用)	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	●	S-007021	1.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、FL6+Ar12+LE5のガラス構成における数値を示す。				
L-001493	家庭	断熱	窓	薄型Low-E複層ガラス(家庭用)	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	●	S-007022	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Kr2.5+FL3のガラス構成における数値を示す。				
L-001494	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	●	S-007023	1.27	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第1部:一般及び窓及びドアの熱性能-熱貫流率の計算-第2部:フレームの	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所 ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。				

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標								
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位 単位	評価方法の タイプ	標準規格		計算方法 計算式	標準する規格	規格の名称	試験条件	
														規格の名称	規格の名称				標準する規格	規格の名称
L-001509	家庭	エネルギー マネジメント	エネルギー マネジメント システム	HEMS (情報提 供サービス・家 電全般)	一般家庭等での省エネ効果を高めるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、家庭全体のエネルギー消費状況の把握や省エネ・節電を目的とした情報提供サービス。	-	-	-	○	S-007050	別紙 *	%	エネルギー 消費効率	具備機能 による評 価	-	-	-	-	-	-
L-001511	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ルームエアコン	冷媒による圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイクルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空気調和機。	-	冷房能力	2.2kW 2.5kW 2.8kW 3.6kW 4.0kW 4.5kW 5.0kW 5.6kW 6.3kW 7.1kW 8.0kW 9.0kW	○ ○ ○ ○ ● ○ ○ ● ● ● ○ ● ●	S-007051 S-007052 S-007053 S-007054 S-007055 S-007056 S-007057 S-007058 S-007059 S-007060 S-007061 S-007062	7.6 7.6 7.5 7.6 7.9 6.8 6.2 7.1 6.9 6.5 6.2 5.5	-	通年エネル ギー消費効 率 (APF)	標準規格 による評 価	JISC9612:20 05	ルームエア コンディ ション	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:20 05	ルームエア コンディ ション	JISC9612:2005に準拠
L-001512	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ)	ヒートポンプ冷 温システム	空気熱源を利用するヒートポンプ式の冷水冷暖房機。暖房時はコンプレッサで圧縮した気相冷媒を凝縮器で凝縮させることにより温熱を、冷房時は圧縮-凝縮-膨張後の液相冷媒を蒸発器で蒸発させることにより冷熱を得る。ヒートポンプ方式を採用しているため、冷温熱を高効率に得ることができる。従来は灯油を燃焼させ暖房するため、一般的なボイラーの効率が80%であるのに対し、ヒートポンプ方式を用いることで高い効率となる。導入先は主に家庭向けとなる。	-	加熱能力	4.0kW以下 4.0kW超6.0kW以下 6.0kW超7.0kW以下 7kW超12kW以下 12.0kW超	- - - - -	S-007063 S-007064 S-007065 S-007066 S-007067	- - - - -	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度): 25°C、行き水温(出湯温度): 40°C、乾球温度: 7°C、湿球温度: 6°C
						行き水温(出湯温度)15°C	冷却能力	4.0kW以下 4.0kW超5.6kW以下	- -	S-007068 S-007069	- -	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格 消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を以下のとおり設定することを条件とする。行き水温(出湯温度): 15°C 乾球温度: 35°C 湿球温度: 24°C 流量: 6.4L/min

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法	準拠する規格	規格の名称	試験条件	
												単 位	名 称							計 算 式	説 明
L-001516	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ループ エアコン	地中熱を利用し、冷媒による圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプ サイクルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空 気調和機。冬季は外気温度より高い温度の熱源を、夏季は外気温 度より低い温度の熱源を利用することで年間を通じて高効率な運 転が可能。	-	冷房能力	4.0kW	-	●	S-007085	4	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:20 13	ルームエア コンディ ション	JISC9612:2005に準拠。ただし、地中戻り温度 (採熱温度)については20℃とする。
L-001517	家庭	空調	空調機 (ヒート ポンプ・ 地中熱利 用)	地中熱ヒートポ ンプ冷水シス テム(ハイブ リッド式)	空気熱源と地中熱源の2種類の熱源の切り替え可能なヒートポン プ式の冷水冷暖房機。圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイ クルを利用して、冷房するシステム、暖房時はコンプレッサ で圧縮した気相冷媒を凝縮器で冷媒/水熱交換器内で凝縮させる ことにより温熱を、冷房時は圧縮-凝縮-膨張後の液相冷媒を蒸 発器で液相冷媒を冷媒/水熱交換器内で蒸発させることにより 冷熱を得る。ヒートポンプ方式を採用しているため、冷温熱を高 効率に得ることができる。従来型は灯油を燃焼し暖房するため、 一般的なボイラーの効率が80%であるのに対し、ヒートポンプ方 式を用いることで高い効率となる。導入先は主に家庭向けとな る。	-	加熱能力	8.0kW 11.0kW	-	●	S-007086	5.19	-	成績係数 (COP)	標準条件 による評 価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P: 定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、地中戻り水 温(入水温度)、行き水温(出湯温度)、乾球温度、 湿球温度を次のとおり設定することを条件とす る。地中戻り温度(採熱温度):15℃、行き水 温(出湯温度):40℃、乾球温度:7℃、湿球温 度:6℃
L-001518	家庭	空調	空調機 (ペレッ トストー ブ)	密閉式ペレッ トストーブ(家庭 用)	木質ペレットを燃料とする燃焼機器。木質ペレットを燃焼させた 熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の 隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気さ せるため、室内の空気と交ることはなく、清潔な環境を保つこ とができる。木質ペレットは、カーボンニュートラルであるため、 CO2の排出削減が可能。	-	-	-	○	S-007088	77 *	%	熱効率	標準条件 による評 価	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	η=100-(qa+qb+qr)、η:熱効率[%]、qa:試 験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失 (Qa)の比、熱による熱損失の割合(燃焼基 準)[%]、qb:試験燃料の熱容量当たり排気ガ ス中の化学的熱損失(Qb)、の潜熱による熱損失 の割合(燃焼基準)[%]、qr:試験燃料の熱容量 当たり底部格子を通過し残渣物中に残った可燃 性構成物質による熱損失(Qr)の残渣物中の可 燃性構成、物質による損失の割合(燃焼基準)[%]※発熱量は高位発熱量とする	JHIAN- 5601:2004	木質バイオ マス燃焼機 器の試験方 法通則	JHIAN-5601:2004に準拠、試験実施にあたって は、ISO17025に準拠した試験機関による性能評 価を行うこととする。	
L-001519	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ・ 太陽熱利 用)	太陽熱集熱器対 応型エコキュ ート	自然冷媒(CO2)を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃ 以上の高温沸き上げ可能な高効率の給湯システムに太陽熱集熱 器を組み合わせたシステム。ヒートポンプユニットと給湯(貯 湯)ユニット、集熱器で構成されている。日中は、太陽熱を利用 するため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保 温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満 320L以上550L未満	○	S-007089	3	-	年間給湯保 温効率(太 陽熱部分除 く)	標準規格 による評 価	JRA4050:200 7R	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JRA4050:2007Rに準拠	JRA4050:200 7R	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JRA4050:2007Rに準拠	
						一般地仕様、標準世帯、保 温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満 320L以上550L未満	○	S-007091	3	-	年間給湯保 温効率(太 陽熱部分除 く)	標準規格 による評 価	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:20 11	家庭用ヒート ポンプ給 湯機	JISC9220:2011に準拠	
									○	S-007092	3	-									
L-001520	家庭	給湯	給湯器 (ヒート ポンプ・ ガス式)	ハイブリッド給 湯機(家庭用)	ヒートポンプ給湯機とガス給湯器に貯湯タンクを組み合わせた家 庭用給湯システム。ヒートポンプ給湯機が記録・学習した湯の使 用状況に基づいて、ヒートポンプ給湯機を最も高効率となる沸き 上げ温度で稼働させ、湯の使用状況に応じてガス給湯器がバック アップする。これによって過剰貯湯や放熱ロスを低減し、CO2排 出削減を実現できる。風呂給湯兼用機、給湯暖房兼用機等があ る。	給湯専用機(給湯:ヒート ポンプ、ガス)	-	-	-	S-007093	-	-	年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイブ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイブ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠	
						給湯暖房兼用機(給湯、暖 房:ヒートポンプ、ガス)	-	-	-	S-007094	-	-	年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイブ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイブ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠	
						給湯暖房兼用機(給湯: ヒートポンプ、ガス、暖 房:ガス)	-	-	●	S-007095	142.3	-	年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイブ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイブ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠	
						風呂給湯兼用機(給湯: ヒートポンプ、ガス)	-	-	●	S-007096	142.3	-	年間給湯効 率	標準規格 による評 価	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイブ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒート ポンプ・ガ ス瞬間式併 用型給湯機 (ハイブ リッド給湯 機)の年間 給湯効率測 定方法	JGKAS A705-2016に準拠	
L-001521	家庭	給湯	給湯器 (石油 式)	石油温水機器 (エコフィ ール)	石油温水機器は灯油を燃料としたバーナによって加熱した高温の 空気により配管内の水を温める機器である。	給湯用のもの(風呂給湯含 む)	-	-	●	S-007097	95	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法通則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法通則	JISS3031:2009に準拠	
						暖房用のもの	-	-	○	S-007098	93	%	エネルギー 消費効率	標準規格 による評 価	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法通則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:20 09	石油燃焼機 器の試験方 法通則	JISS3031:2009に準拠	

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標													
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス能力(名称)	クラス能力(単位)			認証 対象	測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			準拠する規格	規格の名称	試験条件				
												単位	名称		標準規格 による評価	標準規格 による評価	規格の名称			計算式	準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明
L-001523	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	真空管形集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える役割の装置。真空管形は集熱部が真空層を有する二重ガラスで構成され、真空層が空気対流による熱損失を防ぐことができる。外気温との温度差が大きい場合でも集めた熱が外へ逃げにくく、高い効率を維持できる。	-	-	-	●	S-007099	12694 *	kJ/m2・日	単位面積1日あたりの集熱量	標準規格による評価	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	説明			
L-001524	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	平板形集熱器 (強制循環型太陽熱給湯器用) (家庭用)	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える役割の装置。平板形は集熱面が平板状になっており、表面は透明な強化ガラス板で覆われている。下部には熱が逃げないように、断熱材が施されている。	-	-	-	○	S-007100	13954 *	kJ/m2・日	単位面積1日あたりの集熱量	標準規格による評価	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	説明			
L-001525	家庭	給湯	給湯器 (太陽熱 利用)	蓄熱槽(強制循環型太陽熱給湯器用)(家庭用)	蓄熱槽は、集熱器で集められた熱を熱交換してお湯を蓄える装置。	-	-	-	●	S-007101	1.54 *	W/K	熱損失係数	標準規格による評価	JISA4113:2013	太陽蓄熱槽	$KA = (V \times Cp \times \rho (\theta_s - \theta_e)) \div (T_x \angle \theta) \angle \theta = ((\theta_s + \theta_e) \times 2) - ((\theta_1 + \theta_2 + \dots + \theta_n) \div n)$ KA: 熱損失係数[W/K] V: 蓄熱槽容量[m3] θ_s : 試験開始時蓄熱媒体温度[°C] θ_e : 試験終了時蓄熱媒体温度[°C] T: 試験開始から試験終了までの時間[s] Cp: 蓄熱媒体の定圧比熱[J/(kg・K)] ρ : 蓄熱媒体の密度[kg/m3] θ_n : 周囲温度[°C] n: 1時間ごとに測定した周囲温度の測定回数	JISA4113:2013	太陽蓄熱槽	JISA4113:2013に準拠	JISA4113:2013	太陽蓄熱槽	JISA4113:2013に準拠	説明
						-	-	-	○	S-007102	93.2 *	%	有効出湯効率	標準規格による評価	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002	太陽蓄熱槽、優良住宅部品性能試験方法書太陽熱利用システム、または有効出湯効率試験	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002に準拠	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002	太陽蓄熱槽、優良住宅部品性能試験方法書太陽熱利用システム、または有効出湯効率試験	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002に準拠	説明			
L-001526	家庭	動力他	テレビ	液晶テレビ	液晶テレビとは表示装置に液晶を用いた薄型のテレビ受信機をいう。従来はバックライトにCCFL(Cold CathodeFluorescent Lamp: 冷陰極管)を用いていたが、近年は発光効率の良いLED(発光ダイオード)が主流となっている。	-	サイズ	液晶 18V、19V 型	-	S-007103	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件	説明			
						-		液晶 22V 型	-	S-007104	-													
						-		液晶 23V、24V 型	-	S-007105	-													
						-		液晶 26V 型	-	S-007106	-													
						-		液晶 29V 型	-	S-007107	-													
						-		液晶 32V 型	-	S-007108	-													
						-		液晶 39V、40V 型	-	S-007109	-													
						-		液晶 42V 型	-	S-007110	-													
						-		液晶 46V 型	-	S-007111	-													
						-		液晶 47V 型	-	S-007112	-													
						-		液晶 50V、52V 型	-	S-007113	-													
						-		液晶 55V 型	-	S-007114	-													
						-		液晶 58V 型以上	-	S-007115	-													

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	計算方法			試験条件			
												単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明	
L-001527	家庭	動力他	電気便座	電気便座	電気便座は内蔵された電気ヒータにより座面を加温する機能等を持つ便座であり、主に暖房用の便座のみを有する暖房便座と暖房便座に温水洗浄装置を組み込んだ温水洗浄便座がある。さらに、温水洗浄便座の洗浄に使う温水については貯湯タンクをもつ貯湯式と貯湯タンクのない瞬間式※がある。※使用時に瞬間的に温水をつくる方式。貯湯式のようにお湯を保温しないので消費電力量を削減できる。また、便座の暖房機能(保温)については学習機能やタイマーによる低炭素技術が導入されており、さらにセンサーが人の動きを感知し、瞬間的に便座を温める、瞬間暖房便座機能が付随しているものもある。	-	-	-	-	S-007116	-	kWh/年	年間消費電 力量	標準規格 による評 価	-	省エネル ギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネル ギー法	省エネルギー法で定める試験条件	
L-001531	エネルギー転換	事業用発電(再生)	燃料電池	固体酸化物形燃料電池(SOFC)設備	電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水素を供給して電気と熱を発生させる。燃料極、空気極という2枚の電極が、電解質を挟んでいるものをセルといい、セル単体を積み重ねたものをセルスタックという。セルを直列に接続することで、高い電圧と大きな電力が得られる。	-	出力	200kW以下	●	S-007117	55.6 *	%	発電効率	標準規格 による評 価	JISC8841- 3:2011及び JISC8842:20 13	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3部: 性能試験方 法及び環境 試験方法及 び固体酸化 物形燃料電 池単セル及 びスタック の発電性能 試験方法	$\eta_e = (W_{out} - W_{in}) / Q_f \times 100$, η_e : 発電効率[%], W_{out} : 送電電力量[kWh], W_{in} : 受電電力量[kWh], Q_f : 積算燃料消費熱量(低位発熱量) [kWh]	JISC8841- 3:2011及び JISC8842:20 13	小形固体酸 化物形燃料 電池システ ム-第3部: 性能試験方 法及び環境 試験方法及 び固体酸化 物形燃料電 池単セル及 びスタック の発電性能 試験方法	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013に準拠	
								200kW超250kW以下	●	S-007118	55.1 *										
L-001534	エネルギー転換	事業用発電(再生)	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・単結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。単結晶系は、高純度の単結晶のシリコン基板を使用した太陽電池。実用化されている太陽電池の中で最も変換効率が高く、耐久性・信頼性にも優れている。	-	-	-	○	S-007119	22.63 *	%	セル実効変 換効率	標準規格 による評 価	JISC8960:20 12	太陽光発電 用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8914: 2005	結晶系太陽 電池モ ジュール出 力測定方法	JISC8914:2005に準拠	
								-	○	S-007120	21.2	%	モジュール 変換効率	標準規格 による評 価	JISC8914:20 05	結晶系太陽 電池モ ジュール出 力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:20 05	結晶系太陽 電池モ ジュール出 力測定方法	JISC8914:2005に準拠	
L-001535	エネルギー転換	事業用発電(再生)	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・多結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。結晶の粒径が数mm程度の多結晶シリコンを利用した太陽電池。変換効率の面では単結晶と比較して低いが、単結晶より製造工程が簡便であるため、効率とコストのバランスが良く、普及が進んでいる。	-	-	-	○	S-007121	16.4	%	モジュール 変換効率	標準規格 による評 価	JISC8914:20 05	結晶系太陽 電池モ ジュール出 力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:20 05	結晶系太陽 電池モ ジュール出 力測定方法	JISC8914:2005に準拠	
L-001536	エネルギー転換	事業用発電(再生)	太陽光発電	太陽電池(化合物系)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。本項目では、主成分に銅(Cu)、インジウム(In)、ガリウム(Ga)、セレン(Se)を用いた化合物であるCIGS系について記載する。薄膜で省材料などの長所をもち、わずか2~3μmの厚さであっても光を十分吸収するため、薄膜太陽電池としては高い変換効率が見られる。	-	-	-	●	S-007122	15.1	%	モジュール 変換効率	標準規格 による評 価	JISC8960:20 12	太陽光発電 用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8939:20 13	薄膜太陽電 池モジュ ール	JISC8939:2013に準拠	
L-001537	エネルギー転換	事業用発電(再生)	太陽光発電	太陽電池(薄膜シリコン)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。薄膜系は、ガラス、金属箔、フィルムなどの上に2~3ミクロンの太陽電池の層を形成させるものである。	-	-	-	○	S-007123	9.6	%	モジュール 変換効率	標準規格 による評 価	JISC8960:20 12	太陽光発電 用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8935:20 05	アモルファ ス太陽電池 モジュール 出力測定方 法	JISC8935:2005に準拠	
L-001538	エネルギー転換	事業用発電(再生)	太陽光発電	トランスレス方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を調整するコンバータ、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。トランスレス方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータのみで行う方式であり、高周波変圧器絶縁方式に比較し、高効率となるものの電力会社系統との連系には、別途変圧器が必要となる。	-	出力	10kW未満	○	S-007124	98	%	定格負荷効 率	標準規格 による評 価	JISC8961:20 08	太陽光発電 用パワーコ ンディショ ナの効率測 定方法	$\eta_R = P_0 / P_i \times 100$, η_R : 定格負荷効率[%], P_0 : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW], P_i : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:20 08	太陽光発電 用パワーコ ンディショ ナの効率測 定方法	JISC8961:2008に準拠	
								10kW以上	○	S-007125	98.4										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指 標									
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	試験条件	
												単 位	名 称							単 位	名 称
L-001539	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	太陽光発電	高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ(太陽光発電用)	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。直流電力を交流電力に変換する際に損失が生じることから、変換効率(定格負荷効率)の高いパワーコンディショナの選定が重要となる。高周波変圧器絶縁方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータと変圧器の組み合わせで行う方式であり、トランスレス方式と比較し、電力変換効率は低下するが、パワーコンディショナから出力された電力はそのまま電力会社系統と連系可能となる。	-	-	-	○	S-007126	96.5	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	$\eta R = P_0 / (P_i \times 100)$ 、 ηR : 定格負荷効率[%]、 P_0 : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、 P_i : 定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠	
L-001546	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	プロペラ水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングから案内羽根を経て下向きの水流に変化させ、羽根車の軸方向に流れてこれを回転させる。落差と流量変化によって羽根の角度を自動的に調節できる可動羽根のものはカプラン水車として区別され、プロペラ水車は常に一定の角度の固定羽根のものを指す。	-	出力	200kW未満	○	S-007127	80 *	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1,000 \times P) \div (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 η : 水車効率[%]、 P : 水車出力[kW]、 g : 重力加速度[m/s ²]、 ρ : 水の密度[kg/m ³]、 Q : 流量[m ³ /s]、 H : 有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠	
L-001547	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	水力発電	フランス水車(小水力発電用)	水を取り込むケーシングの中に羽根車(ランナー)を設置し、そこを流れる水の圧力により回転させる水車である。最も一般的な水車で、数10m~数100mの落差に広く使われている。	-	出力	200kW未満	○	S-007128	85 *	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	$\eta = (1,000 \times P) \div (g \times \rho \times Q \times H)$ 、 η : 水車効率[%]、 P : 水車出力[kW]、 g : 重力加速度[m/s ²]、 ρ : 水の密度[kg/m ³]、 Q : 流量[m ³ /s]、 H : 有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠	
L-001551	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	地熱発電	温水熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として温水を利用する。	100°C未満、200V/220V	出力	3.0kW未満	-	S-007129	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、 P : 送電端出力[kW]、 Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力=(発電端出力)-(作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95°C以下、冷却水入口温度: 20°C以上	
								3.0kW以上6.5kW未満	-	S-007130	-										
								6.5kW以上45kW未満	●	S-007131	6.2 *										
								45kW以上100kW未満	○	S-007132	6.2 *										
								100kW以上200kW未満	○	S-007133	6.8 *										
								200kW以上300kW未満	-	S-007134	-										
						100°C未満、400V/440V	出力	3.0kW未満	-	S-007135	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、 P : 送電端出力[kW]、 Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力=(発電端出力)-(作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95°C以下、冷却水入口温度: 20°C以上	
								3.0kW以上6.5kW未満	-	S-007136	-										
								6.5kW以上45kW未満	●	S-007137	6.2 *										
								45kW以上100kW未満	○	S-007138	6.8 *										
								100kW以上200kW未満	●	S-007139	6.83 *										
								200kW以上300kW未満	-	S-007140	-										
						100°C以上120°C未満、200V/220V	出力	3.0kW未満	-	S-007141	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、 P : 送電端出力[kW]、 Q : 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力=(発電端出力)-(作動媒体ポンプ、インバータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消費電力)	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度: 95°C以下、冷却水入口温度: 20°C以上	
								3.0kW以上6.5kW未満	-	S-007142	-										
								6.5kW以上45kW未満	-	S-007143	-										

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標																		
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位		評価方法の タイプ	準拠する規格	規格の名称	計算方法		準拠する規格	規格の名称	試験条件									
												単位	名称				計算式	説明												
L-001552	エネルギー 転換	事業用発 電(再エ ネ)	地熱発電	蒸気熱源小型バ イナリー発電設 備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、よ り低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた 二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。生産井から地熱流 体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体 の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地 熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、 凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源と して蒸気を利用する。	200V/220V	出力	3.0kW未満	-	S-007165	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力=(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消 費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	蒸気送電端発電効率の算出にあたっては、入口 蒸気温度、出口ドレン温度、冷却水入口温度を 次のとおり設定することを条件とする。入口蒸 気温度: 130℃以下、出口ドレン温度: 36℃以 上、冷却水入口温度: 20℃以上										
						3.0kW以上6.5kW未満	-	S-007166	-	6.5kW以上45kW未満	-	S-007167	-	45kW以上100kW未満	-	S-007168	-	100kW以上200kW未満	-	S-007169	-	200kW以上300kW未満	-	S-007170	-					
						400V/440V	出力	3.0kW未満	-	S-007171	-	%	送電端発電 効率	標準条件 による評 価	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	$\eta = P/Q \times 100$ 、 η : 送電端発電効率[%]、P: 送電 端出力[kW]、Q: 入熱量(低位発熱量)[kW]送電端 出力=(発電端出力) - (作動媒体ポンプ、イン バータ、(絶縁トランス)、ほかユニット内消 費電力)	環境省によ り独自に設 定された方 法	-	蒸気送電端発電効率の算出にあたっては、入口 蒸気温度、出口ドレン温度、冷却水入口温度を 次のとおり設定することを条件とする。入口蒸 気温度: 130℃以下、出口ドレン温度: 36℃以 上、冷却水入口温度: 20℃以上										
						3.0kW以上6.5kW未満	-	S-007172	-	6.5kW以上45kW未満	-	S-007173	-	45kW以上100kW未満	-	S-007174	-	100kW以上200kW未満	●	S-007175	10.97 *	200kW以上300kW未満	-	S-007176	-					
						L-001555	エネルギー 転換	事業用発 電(再エ ネ)	バイオマ ス発電	ガスエンジン発 電設備(メタン 発酵発電用)	バイオメタンガスを燃料にシリンダー内部で燃料の爆発(膨張) を発生させ、その圧力でピストンを往復動させ、その往復動を回 転エネルギーに変える発電装置。ストイキオメトリ燃焼(理論空 気で混合したガスが完全燃焼する方式)、リーンバーンと呼ばれ る希薄燃焼の二つの方式があり、最近では予混合圧縮自着火燃焼 といわれる高圧縮による自然着火でシリンダー内全体をメラメラ と燃える点火プラグを用いないものが環境面や高効率化で注目を 集めている。	50Hz	出力	100kW未満	●	S-007177	84 *	%	総合効率	標準規格 による評 価	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	$\eta_{t.out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 $\eta_{t.out}$: 発電端総合効 率[%]、 η_{out} : 発電効率[%]、 η_h : 熱出力効率[%]	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験 条件とする。				
												100kW以上1000kW未満	○	S-007178	41.8 *	100kW未満	○	S-007179	32	%	発電効率	標準規格 による評 価	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	$\eta_{out} = (3.6 \times P_{out}) \div (H_f \times F_f) \times 100$ η_{out} : 発電効率 [%] P_{out} : 発電出力(発電端) [kW] H_f : 燃料の低位 発熱量[MJ/m ³ N] F_f : 燃料消費量[m ³ N/h]	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験 条件とする。		
												100kW以上1000kW未満	○	S-007180	38.8	60Hz	出力	100kW未満	●	S-007181	84 *	%	総合効率	標準規格 による評 価	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	$\eta_{t.out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 $\eta_{t.out}$: 発電端総合効 率[%]、 η_{out} : 発電効率[%]、 η_h : 熱出力効率[%]	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験 条件とする。
												100kW以上1000kW未満	-	S-007182	-	100kW未満	○	S-007183	32	%	発電効率	標準規格 による評 価	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	$\eta_{t.out} = \eta_{out} + \eta_h$ (発電端)、 $\eta_{t.out}$: 発電端総合効 率[%]、 η_{out} : 発電効率[%]、 η_h : 熱出力効率[%]	JIS8122:200 9	コージェネ レーション ユニットの 性能試験方 法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験 条件とする。		
												100kW以上1000kW未満	-	S-007184	-															

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の 名称	原理・しくみ	クラス			認証 対象	L2-Tech 水準表 情報№	L2-Tech 水準	指標												
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)				測定単位	評価方法の タイプ	標準規格 による評 価	準備する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	試験条件	説明			
																						単位	名称	単位
L-001556	エネルギー転換	事業用発電(再エネ)	バイオマス発電	ディーゼル発電設備(バイオディーゼル燃料専用)	ディーゼルエンジンを主機関とする発電機であり、軽油や重油の代わりにバイオマスディーゼル燃料を用いる。バイオマスディーゼル燃料の使用によりCO2削減を実現するほか、非常時のバックアップや電力消費のピークカットに貢献する。	60Hz、燃料の種類：バイオマスディーゼル燃料	出力	22kW未満(25kVA未満)	○	S-007185	33.1*	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2019	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = (3.6 \times P_{out}) \div (H_{ff} F_f) \times 100$ η_{out} : 発電効率[%]、 P_{out} : 発電出力(発電機) [kW]、 H_{ff} : 燃料の低位発熱量[MJ/m3N]、 F_f : 燃料消費量 [m3N/h]	JIS8122:2019	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2019に準拠。使用するバイオディーゼル燃料濃度を100%とする				
						22kW以上74kW未満(25kVA以上80kVA未満)	○	S-007186	48*															
						74kW以上368kW未満(80kVA以上400kVA未満)	●	S-007187	48.9*															
						368kW以上(400kVA以上)	○	S-007188	46*															
L-001558	エネルギー転換	地域熱供給	熱輸送	潜熱蓄熱輸送設備	潜熱蓄熱材(PCM:Phase Change Material)をコンテナに充填し、PCMの融解熱として高密度に熱エネルギーを蓄えて、車輛により広範囲に熱を供給する技術。	60Hz、燃料の種類：バイオマスディーゼル燃料	出力	22kW未満(25kVA未満)	○	S-007189	32.3*	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2019	コージェネレーションユニットの性能試験方法	$\eta_{out} = (3.6 \times P_{out}) \div (H_{ff} F_f) \times 100$ η_{out} : 発電効率[%]、 P_{out} : 発電出力(発電機) [kW]、 H_{ff} : 燃料の低位発熱量[MJ/m3N]、 F_f : 燃料消費量 [m3N/h]	JIS8122:2019	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2019に準拠。使用するバイオディーゼル燃料濃度を100%とする				
						22kW以上74kW未満(25kVA以上80kVA未満)	○	S-007190	46.1*															
						74kW以上368kW未満(80kVA以上400kVA未満)	○	S-007191	42.7*															
						368kW以上(400kVA以上)	○	S-007192	45.9*															
L-001579	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備HAP法(し尿・浄化槽汚泥用)	リン酸を含む汚水の生物処理水に対して、晶析槽においてカルシウム材を添加し、pH調整することによりHAP(ヒドロキシアパタイト、(Ca10(PO4)6(OH)2)の結晶を析出させる方法。回収したリンは副産りん酸肥料として再利用可能。	-	-	-	○	S-007197	80*	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	環境省手引き	リン回収・利活用の手引き	(晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度)/晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策	リン回収・利活用の手引き	処理量の内訳 し尿: 浄化槽汚泥=4:6、し尿T-P濃度: 270mg/L、し尿PO4-P濃度: 189mg/L、浄化槽汚泥T-P濃度: 150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P濃度: 60mg/L、混合T-P濃度: 198mg/L、混合PO4-P濃度: 112mg/L				
L-001580	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備MAP法(し尿・浄化槽汚泥用)	リン酸を含む汚水に対して、晶析槽においてマグネシウム材を添加し、pH調整することによりMAP(リン酸マグネシウムアンモニウム、(MgNH4PO4)の結晶を析出させる方法。回収したリンは化成肥料として再利用可能。	-	-	-	○	S-007198	75*	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	環境省手引き	リン回収・利活用の手引き	(晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度)/晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策	リン回収・利活用の手引き	処理量の内訳 し尿: 浄化槽汚泥=4:6、し尿T-P濃度: 270mg/L、し尿PO4-P濃度: 189mg/L、浄化槽汚泥T-P濃度: 150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P濃度: 60mg/L、混合T-P濃度: 198mg/L、混合PO4-P濃度: 112mg/L				
L-001581	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備MAP法(下水汚泥用)	脱 waters 液からリン回収する従来事例に対し、よりリン含有量の高い下水汚泥からMAP(リン酸マグネシウムアンモニウム)として回収する「MAP法」が平成24/25年度国交省B-DASH採択事業で開発された。回収したリンは配合肥料(化成肥料)として再利用可能。	-	-	-	○	S-007199	90*	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	国土交通省ガイドライン	資料No.805 B-DASHプロジェクト NO.6 2014年8月消化汚泥からのリン除去・回収技術導入ガイドライン(第1版)	(消化汚泥PO4-P濃度-リン処理PO4-P濃度)/消化汚泥PO4-P濃度	国土交通省国土技術政策総合研究所	資料No.805 B-DASHプロジェクト NO.6 2014年8月消化汚泥からのリン除去・回収技術導入ガイドライン(第1版)	資料No.805 消化汚泥濃度(TS): 1.7%、消化汚泥T-P濃度: 600mg/L、消化汚泥PO4-P濃度: 200mg/L				
L-001583	廃棄物・リサイクル	リサイクル	選別機	近赤外線樹脂選別機	プラスチックに近赤外線を照射すると材質により吸収される波長が異なることを利用し、特定の材質の選別を行う。コンベア先端のエアノズルで吹き落とし選別する。PVC,PVDC除去(サーマルリサイクル)やPP,PS,ABS選別(マテリアルリサイクル)に使用される。	-	-	-	○	S-007200	3	種類	選別樹脂種類数	標準条件による評価	環境省交付規定	H27年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(省CO2型リサイクル高度化設備導入促進事業)交付規定	選別樹脂種類数に残渣は含まない	環境省により独自に設定		選別純度: 99%、(ベルトコンベア幅100mmあたりの樹脂の投入量が50kg/h以内の場合)				

別紙

No.	設備・機器等	クラス		L2-Tech水準	備考
		条件	能力		
S-006811	BEMS (制御サービス・空調・熱源・中央方式)	空気熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有</p> <p>②上記①の計測粒度が1分単位以内であること</p> <p>③冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、を説明変数として、合計のエネルギー消費量(熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量の合計)が最小となるような冷水出口温度を(過去の実績データに基づいて)自動で算出できる機能を保有</p> <p>④上記の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有</p> <p>⑤導入可能な施設が、限定されない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0(必須)：導入可能な施設が限定されない</p> <p>要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出</p>
S-006812	BEMS (制御サービス・空調・熱源・中央方式)	水熱源仕様	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすBEMSサービスであること。</p> <p>①冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有</p> <p>②上記①の計測粒度が1分単位以内であること</p> <p>③冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度を説明変数として、合計のエネルギー消費量(熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量の合計)が最小となるような冷水出口温度を(過去の実績データに基づいて)自動で算出できる機能を保有</p> <p>④上記③の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。</p> <p>要件0(必須)：導入可能な施設が限定されない</p> <p>要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出</p>
S-007050	HEMS (情報提供サービス・家電全般)	-	-	<p>下記の①～⑤の条件を満たすHEMSサービスであること。</p> <p>①対象住宅全体の電力消費量を、30分単位以内で計測できる機能を保有</p> <p>②上記①において計測したエネルギー消費量と、他住宅で計測したエネルギー消費量を比較し、対象住宅全体のエネルギー消費量のランキング情報を表示できる機能を保有</p> <p>③上記②のランキング情報を、対象住宅におけるユーザー属性別※に表示できる機能を保有 ※地域別、間取別、家族構成別の3種いずれも</p> <p>④導入可能な住宅が、単一の住宅メーカーが供給する住宅に限定されない</p> <p>⑤導入の際にインターネット接続サービスへの加入が必要な場合、集合住宅向け全戸一括契約型へのサービス加入を前提としない</p>	<p>複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「HEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>事例調査の結果、HEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い家電全般を対象とした情報提供サービスを認証対象として設定した。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記のいずれかとし、本リストでは「要件0」および「要件3」を対象とし水準を設定している。</p> <p>要件0(必須)：導入可能な住宅が限定的されていない</p> <p>要件1：現状のエネルギー消費量に応じて省エネアドバイス、および目標の省エネ量が提供可能</p> <p>要件2：現状の光熱水道費に応じて節約アドバイス、および目標の節約額を提供可能</p> <p>要件3：エネルギー消費量が類似している世帯との比較情報の提供が可能</p> <p>要件4：過去のサービス利用履歴の情報に基づいて、より興味・関心の強い情報の提供が可能</p> <p>要件5：現状のエネルギー消費量が自身の平均的な消費量と比較して多くなったタイミングで、消費量が多いことを閲覧頻度が多い媒体へPush配信可能</p>
S-006909	内部熱交換最適化蒸留システム	蒸留塔が高圧部(濃縮部)と低圧部(回収部)とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	<p>下記の①および②の条件を満たす蒸留システムであること。</p> <p>①高圧部と低圧部とで熱交換できる機能を保有</p> <p>②蒸留塔内部の熱分布を調整し熱交換率を最適化できる機能を保有</p>	<p>本設備・機器等は、個別受注設計生産されるため標準条件(試験条件、計算方法)を設定し、定量評価する方法はそくわないと判断し、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。</p> <p>文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、本設備・機器等として求められる機能要件をL2-Tech水準とした。</p>